

第7期神戸市介護保険事業計画策定に向けての実態調査 中間結果概要

調査名称	健康とくらしの調査 (高齢者一般調査)	在宅高齢者実態調査	施設入所者調査				
			(特別養護老人ホーム)	(介護老人保健施設)	(介護療養型医療施設)	(特定施設・サービス付き 高齢者向け住宅)	(認知症対応型共同生活 介護)
調査対象	平成28年10月1日現在、 <u>要介護認定を受けていない</u> 神戸市内に居住する65歳以上の男女	平成28年10月31日現在、 <u>要介護認定を受けている</u> 神戸市内に居住する65歳以上の男女	【施設調査】 平成28年9月30日現在開設中の介護施設等 【入所者調査】 (施設が記入) ① 平成29年1月1日24時現在の入所者 ② 平成28年1月1日～平成28年12月31日に入所・入院利用の実績があり、平成29年1月1日24時まで退所された方				
調査件数	無作為抽出 15,921件 (前回15,905件)	無作為抽出 7,494件 (前回7,418件)	悉皆調査 95施設 (前回86施設)	悉皆調査 56施設 (前回53施設) 〔退所者については 50%を無作為抽出〕	悉皆調査 8施設 (前回15施設)	悉皆調査 特定施設等 105施設 (前回82施設) サ高住 73施設 (前回47施設)	悉皆調査 107施設
調査方法	郵送(本人宅送付) / 無記名回答		郵送(事業所送付) / 記名回答				
調査期間	平成28年11月21日 ～平成28年12月5日	平成29年1月7日～平成29年1月25日					
有効回答数	11,677 (有効回答率: 73.34%)	2,931 (有効回答率: 39.11%)	72施設 (回収率:75.79%)	38施設 (回収率:67.86%)	5施設 (回収率:62.50%)	特定施設等 78施設 (回収率:74.29%) サ高住 42施設 (回収率:57.53%)	63施設 (回収率:58.88%)
前回の有効回答数	11,805 (有効回答率: 74.22%)	3,487 (有効回答率: 47.01%)	78施設 (回収率:90.70%)	45施設 (回収率:84.91%)	11施設 (回収率:73.33%)	特定施設等 65施設 (回収率:79.27%) サ高住 27施設 (回収率:57.45%)	

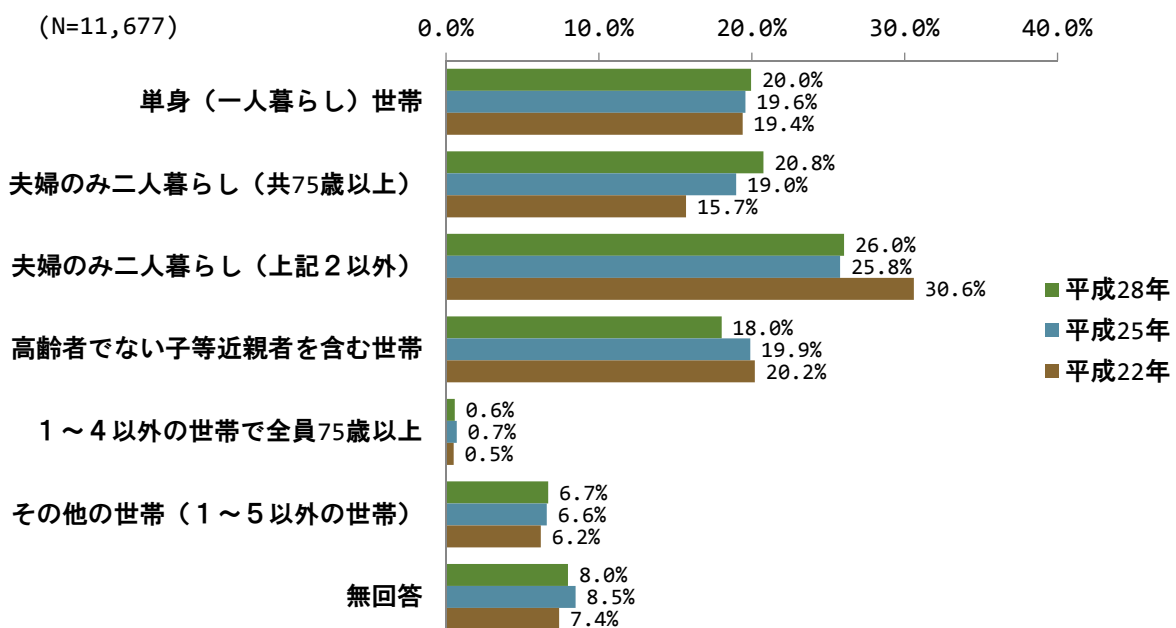
第7期神戸市介護保険事業計画策定に 向けての実態調査結果

(中間報告)

健康とくらしの調査 (高齢者一般調査)

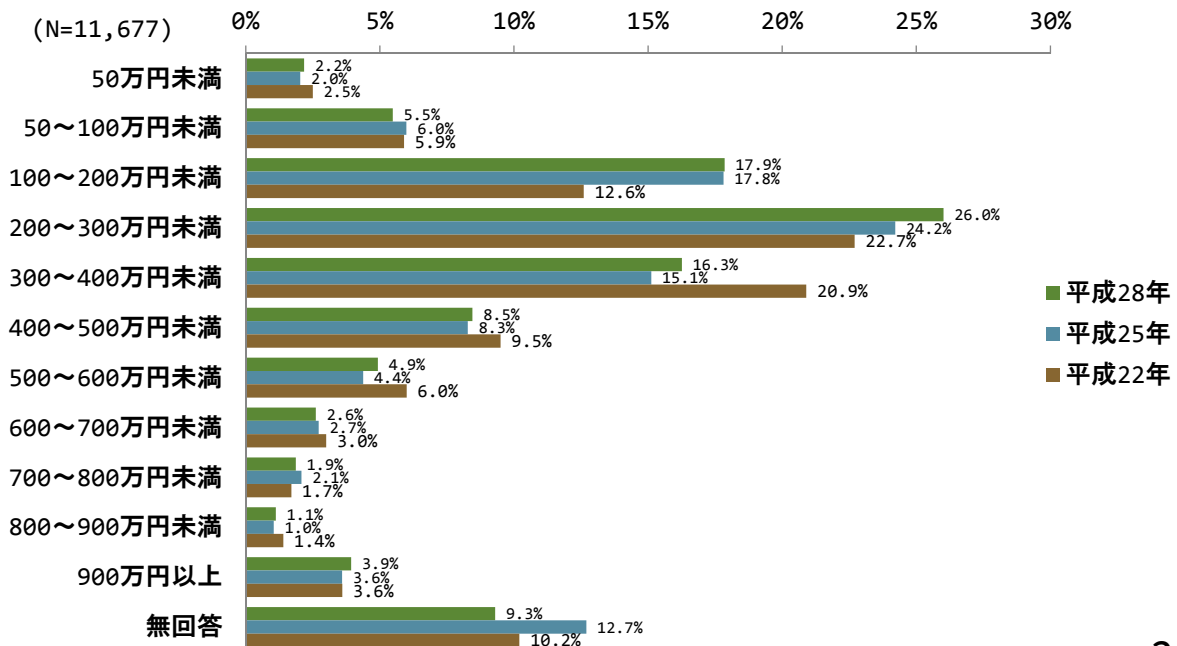
家族構成

単身(一人暮らし)世帯が20.0%(19.6%)、ともに75歳以上の夫婦のみ二人暮らし世帯が20.8%(19.0%)となっており、前回調査と比較して、両世帯とも増加してきている。



世帯の収入

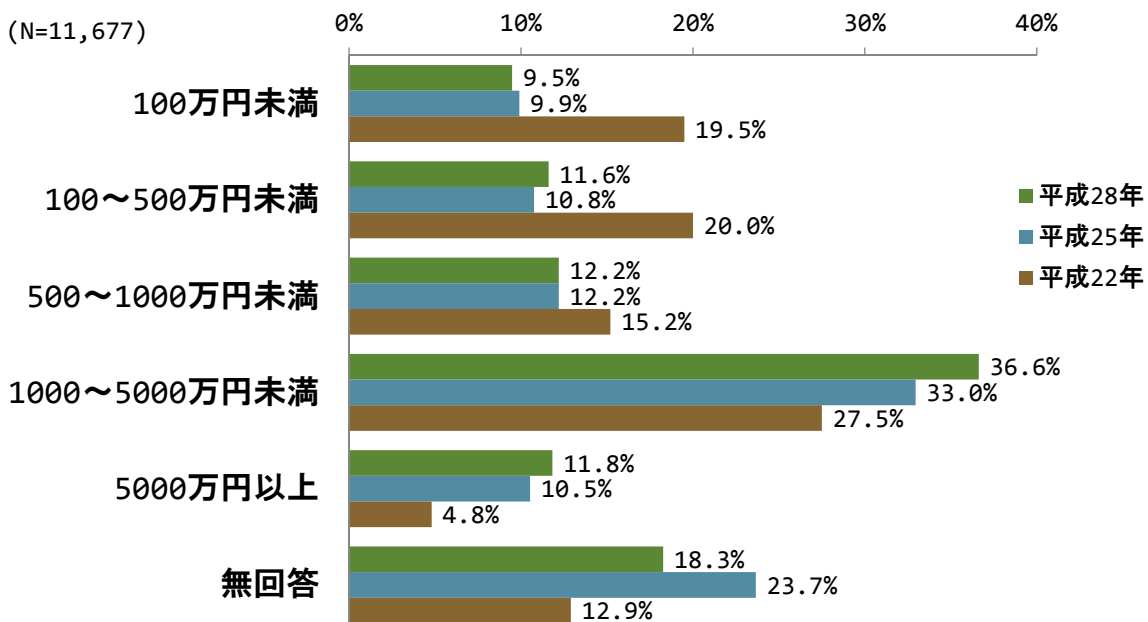
世帯の収入は、「200～300万円未満」の世帯が26.0%と最も多く、次いで「100～200万円未満」17.9%、「300～400万円未満」16.3%が多くなっている。前回調査との比較では、「200～300万円未満」が1.8ポイント、「300～400万円未満」が1.2ポイント増加している。



2

世帯の資産

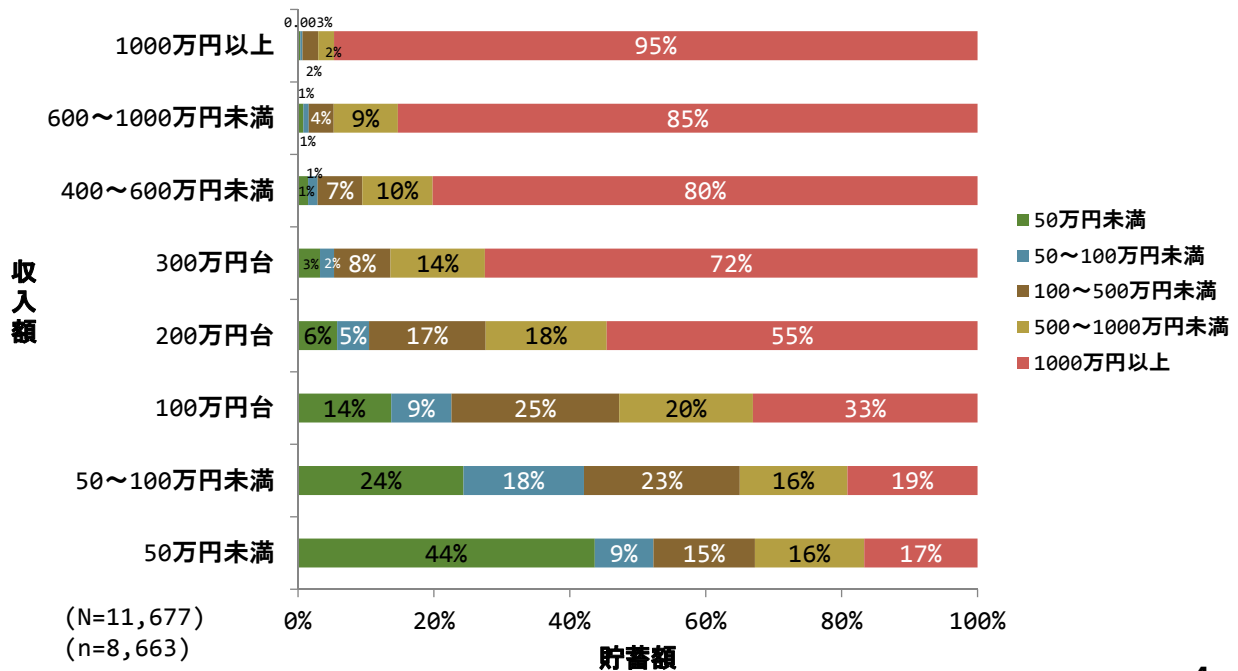
前回調査との比較では、1000万円以上の世帯が増加している。



3

収入／貯蓄額

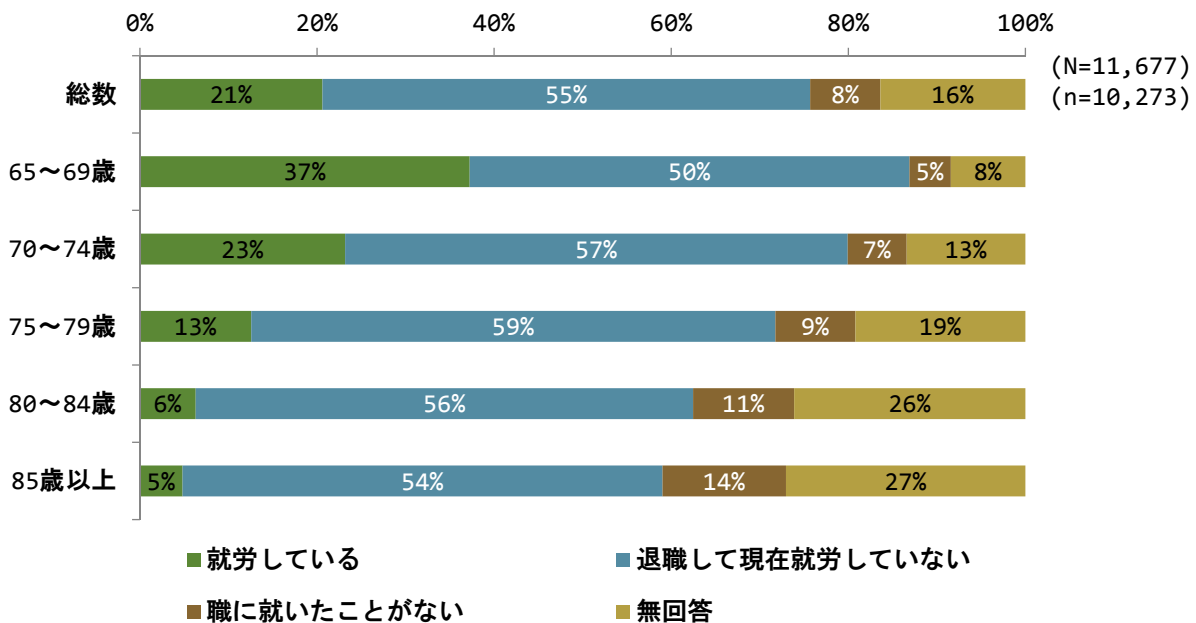
貯蓄額1,000万円以上の世帯の割合は、世帯収入100万円未満では19%、200万円以上では半数以上となっている。



4

就労状況

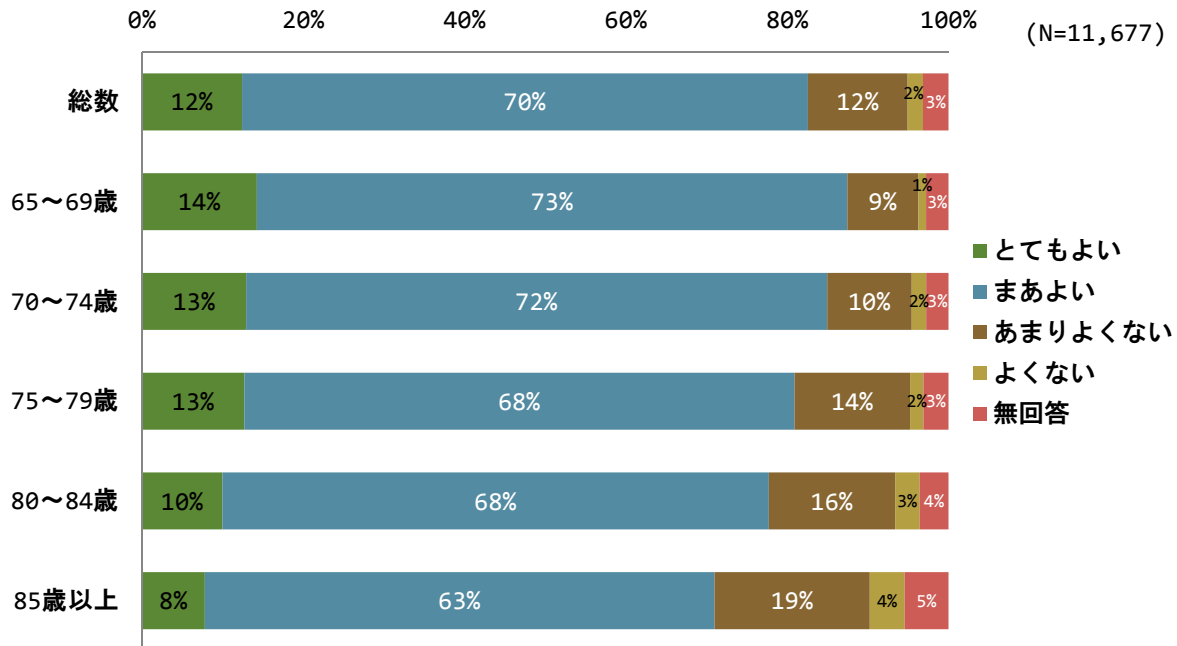
65~69歳では37%、70~74歳では23%の方が就労している。



5

健康状況

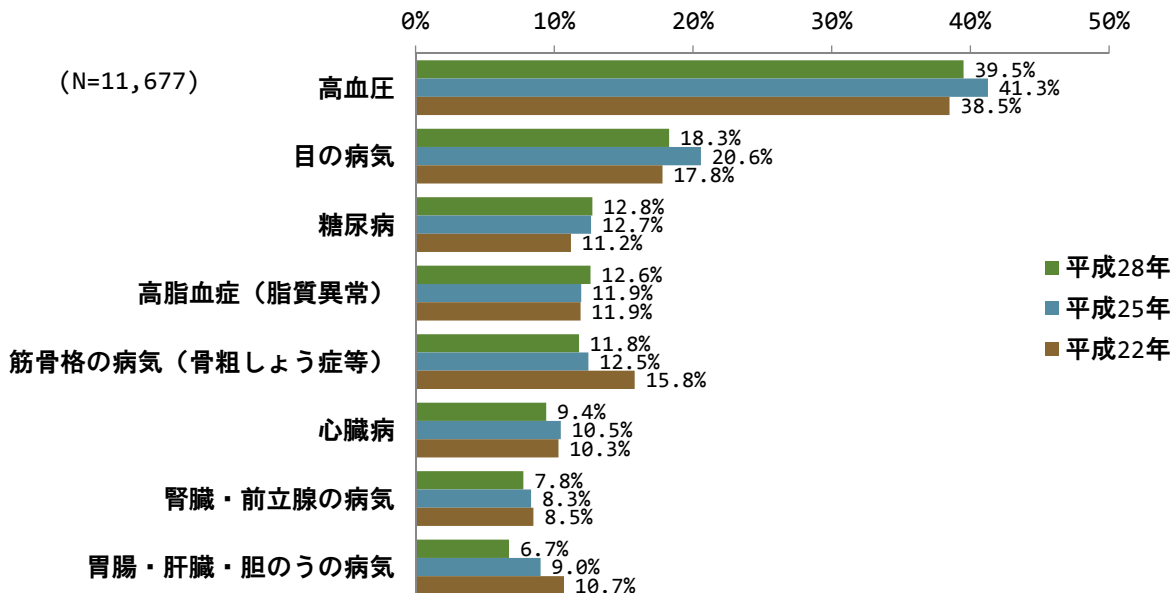
健康状態が「とてもよい」「まあよい」と回答した方は合わせて約8割となっている。
 年齢別にみると、「85歳以上」では、「とてもよい」「まあよい」と回答した方は合わせて約71%、「あまりよくない」「よくない」と回答した方は合わせて23%となっている。



6

罹患の状況

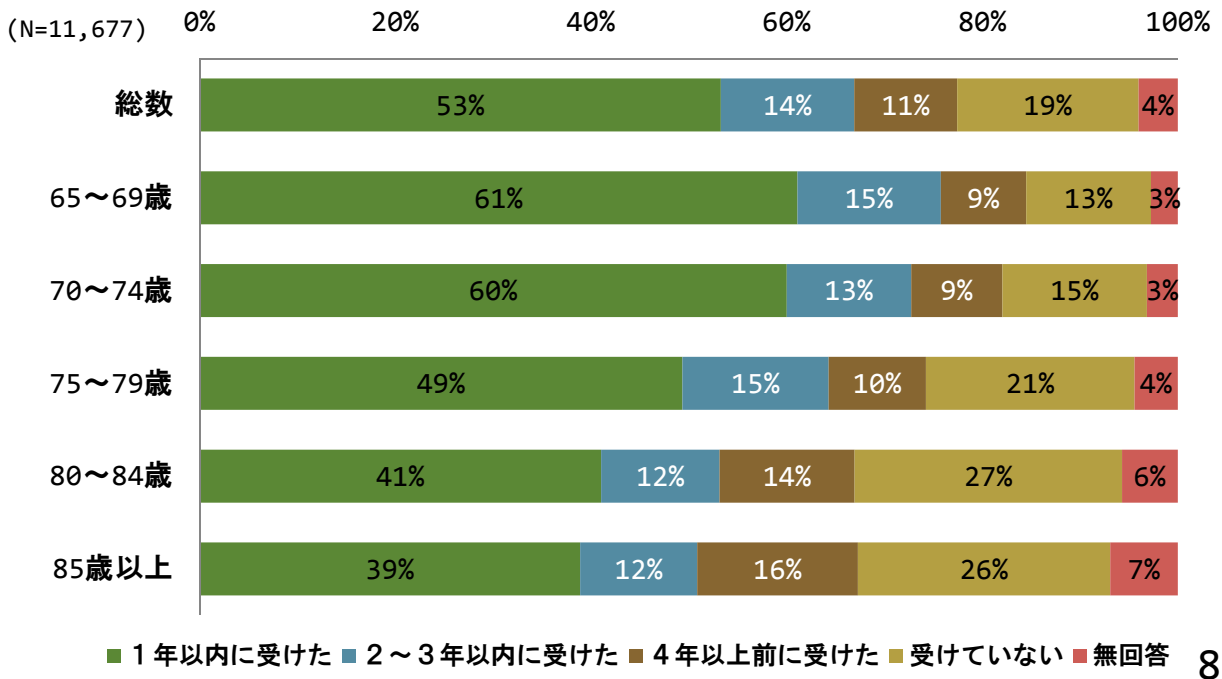
「高血圧」が39.5%と最も多く、次いで「目の病気」18.3%、「糖尿病」12.8%、「高脂血症」12.6%、「筋骨格系の病気」11.8%の順に多くなっている



7

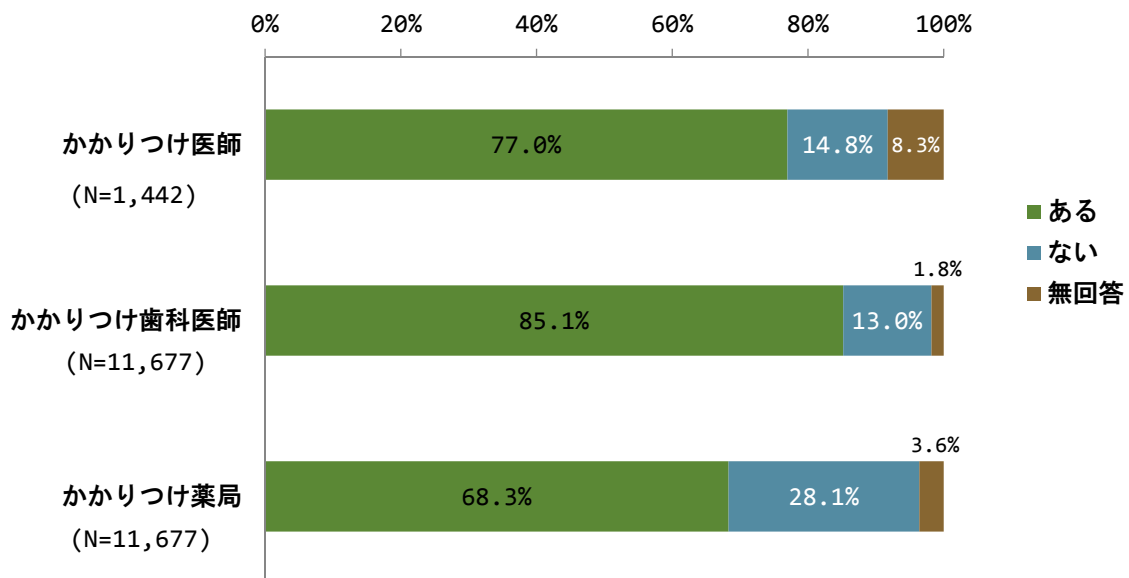
健診・人間ドッグの受診状況

65～74歳では約6割の方が1年以内に受診しているが、80歳以上では約4割となっている。また、80歳以上では約3割の方が「受けていない」と回答している。



かかりつけ医師・歯科医師・薬局

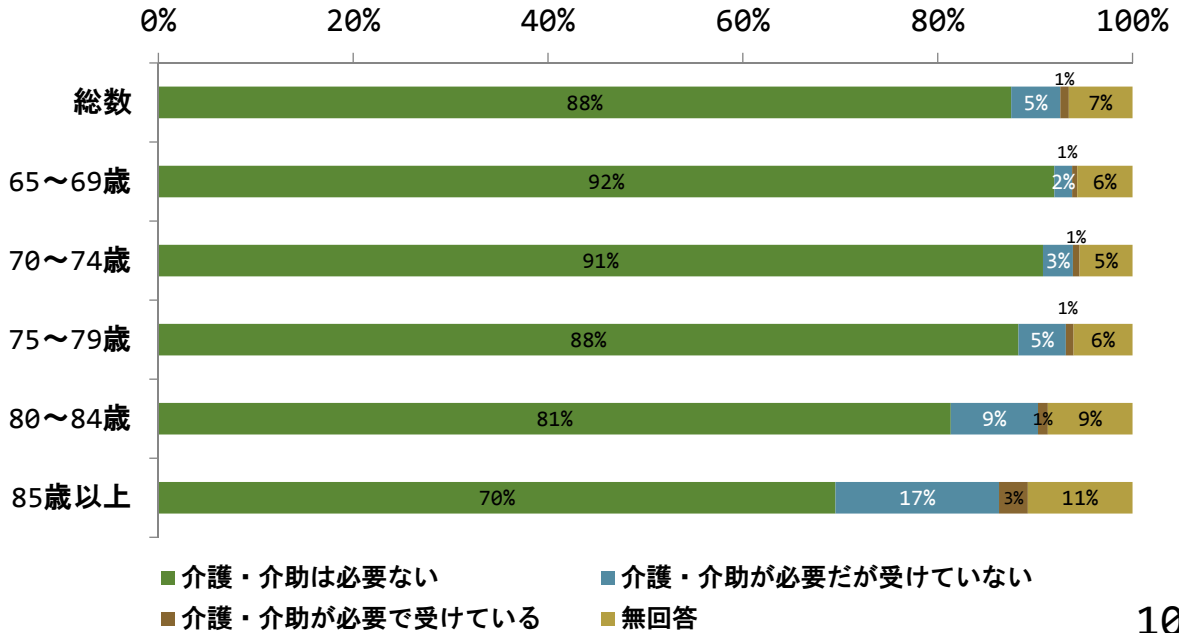
かかりつけ医師は77.0%、かかりつけ歯科医師は85.1%、かかりつけ薬局は68.3%の方が「ある」と回答している。



身体状況

約9割の方が「介護・介助は必要ない」と回答している。年齢別にみると、85歳以上の方の約2割が、介護・介助が必要と回答している。

(N=11,677)

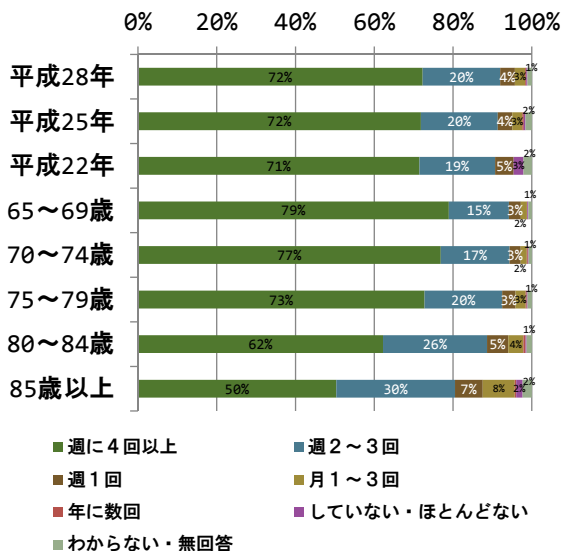


10

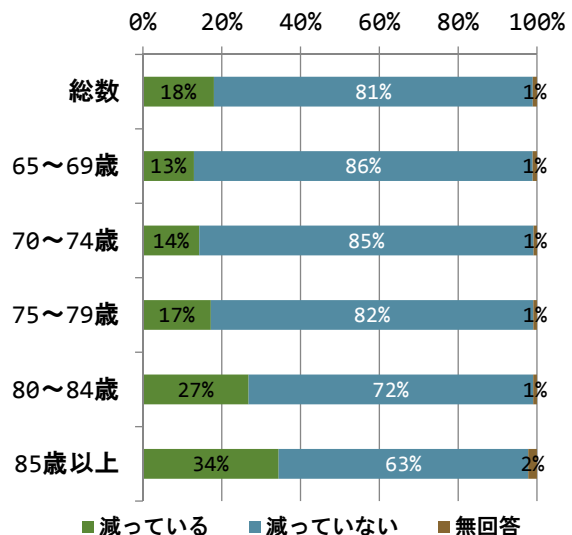
外出の頻度

「週4回以上」外出する方は、79歳までは7割を超えているが、80~84歳では約6割、85歳以上では約5割となっている。
 昨年と比べて外出の頻度が減っているかどうかたずねたところ、「減っている」が18%、「減っていない」が81%となっている。

■ あなたが外出する頻度はどのくらいですか (N=11,677)



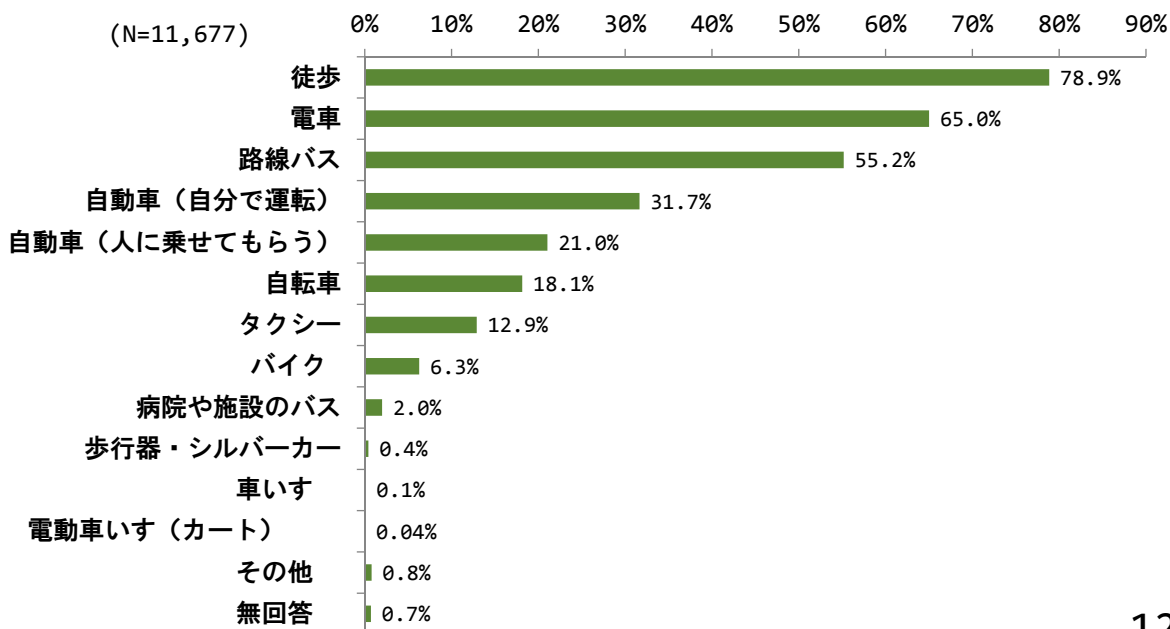
■ 昨年と比べて外出の回数は減っていますか。 (N=11,677)



11

外出時の交通手段

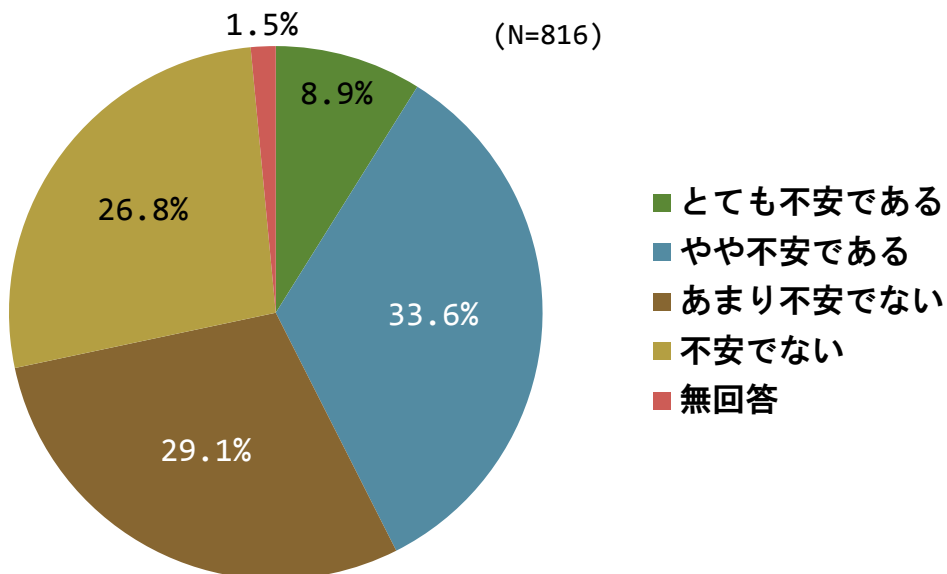
外出時の交通手段は、「徒歩」78.9%、「電車」65.0%、「路線バス」55.2%の順で多くっており、公共交通機関の利用が多い。次いで「自動車（自分で運転）」31.7%となっている。



12

転倒に対する不安

「とても不安である」「やや不安である」を合わせた約4割の方が転倒に対して不安を持っている。

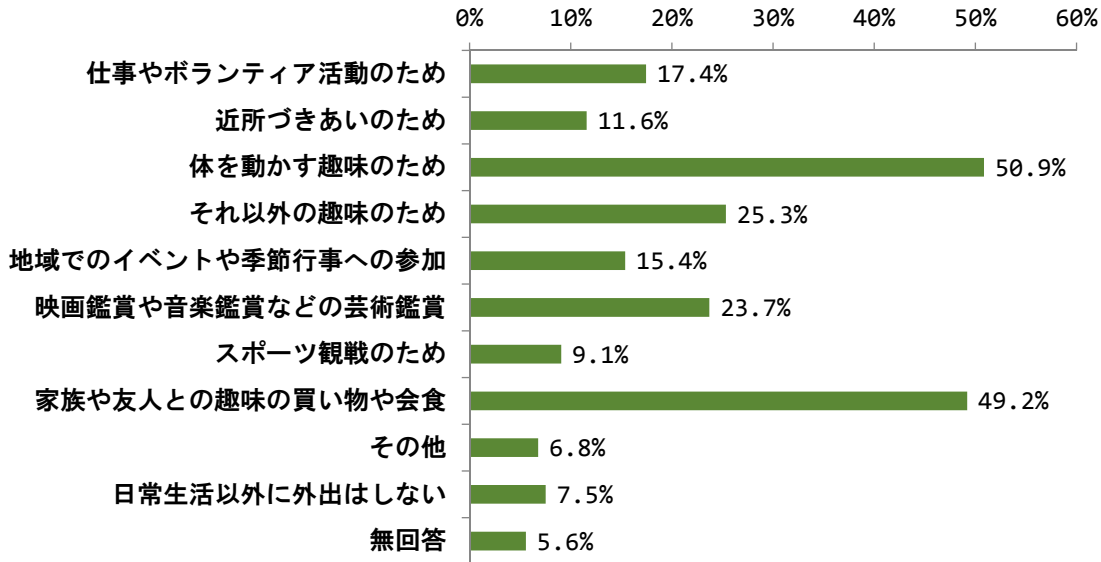


13

外出の主な目的

日常生活（買い物、通院など）を除く外出目的をたずねたところ、「体を動かす趣味のため」50.9%、「家族や友人との買い物や会食」49.2%、「それ（体を動かす）以外の趣味のため」25.3%、「映画鑑賞や音楽鑑賞などの芸術鑑賞」23.7%の順に多くなっている。

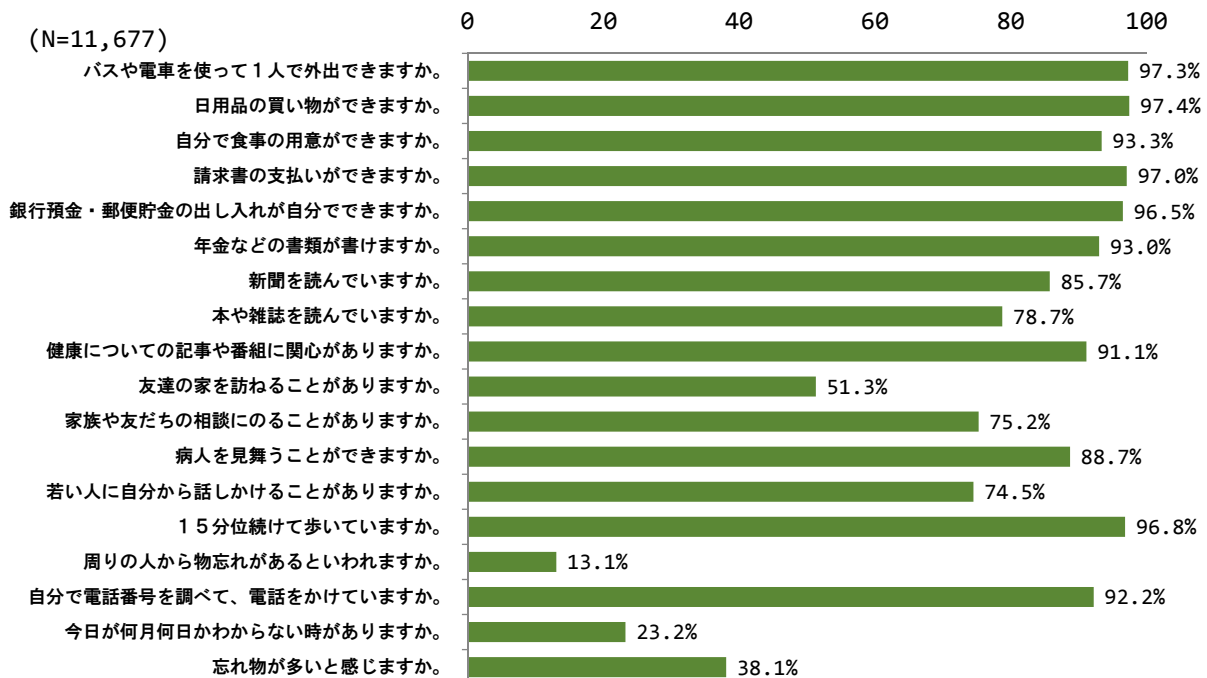
(N=11,677)



日常生活について

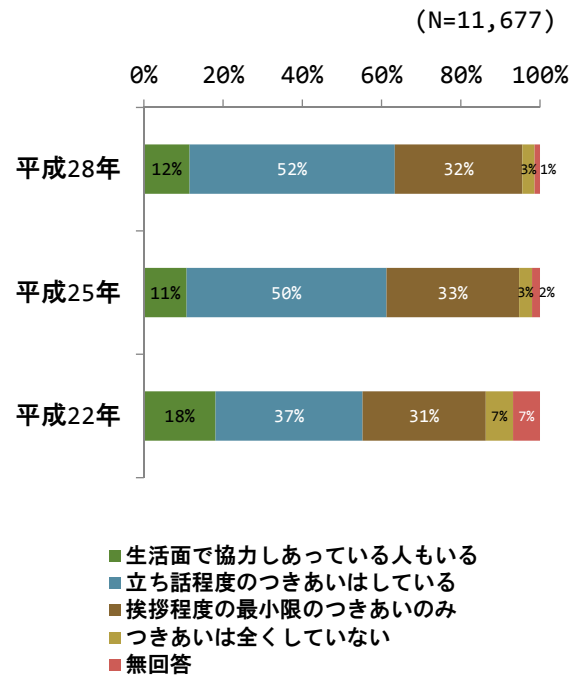
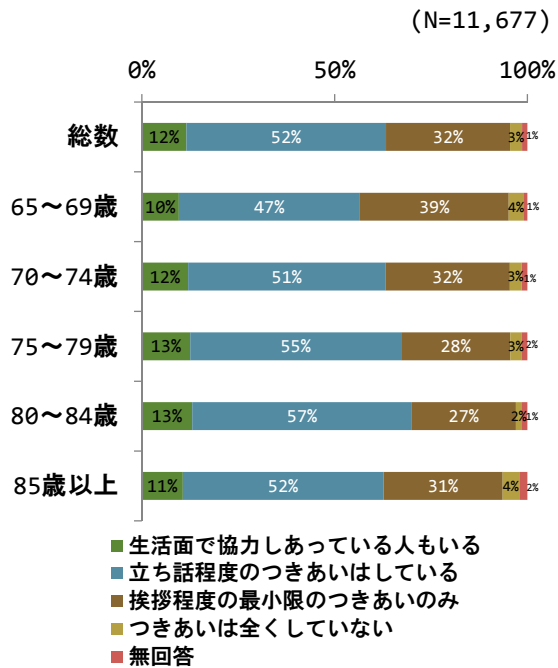
「友達の家を訪ねることがありますか。」について、「ある」と回答した方は51.3%となっている。

(N=11,677)



近所づきあい

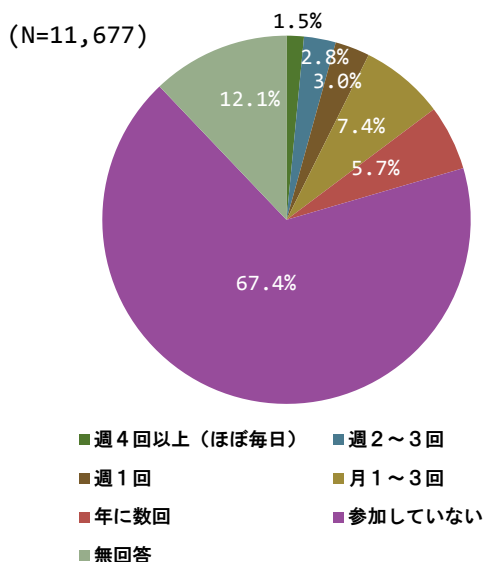
65～69歳では「挨拶程度の最小限のつきあいのみ」と回答した方の割合(39%)が、他の年代よりも高くなっている。前回調査との比較では、概ね同じ結果となっている。



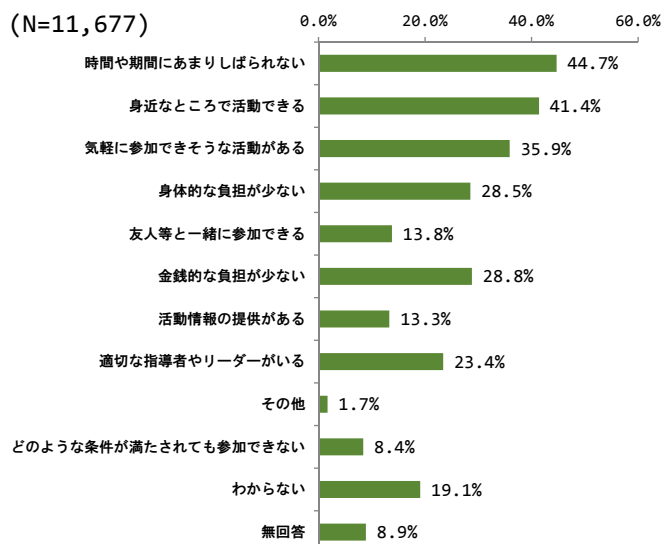
ボランティア参加頻度・条件

約2割の方が、ボランティアグループに参加しているが、約7割の方は「参加していない」と回答している。ボランティアに参加したり今以上に参加するための条件をたずねたところ、「時間や期間にあまりしぼられないこと」が44.7%と最も多く、次いで「身近なところで活動できる」41.4%、「気軽に参加できそうな活動がある」35.9%が多くなっている。

ボランティアグループへの参加頻度

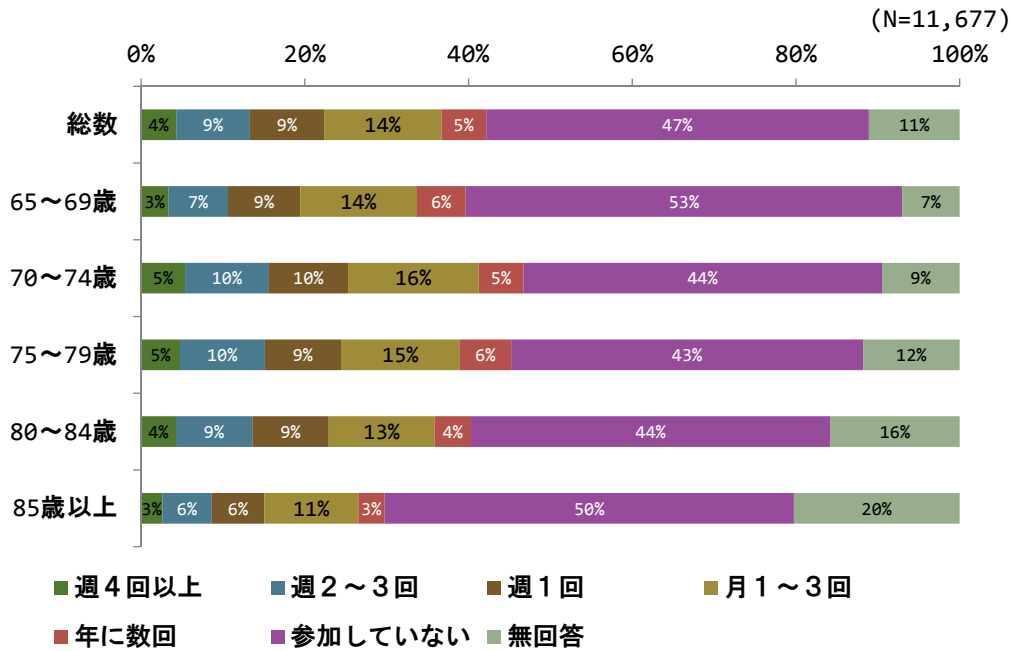


ボランティア活動への参加条件



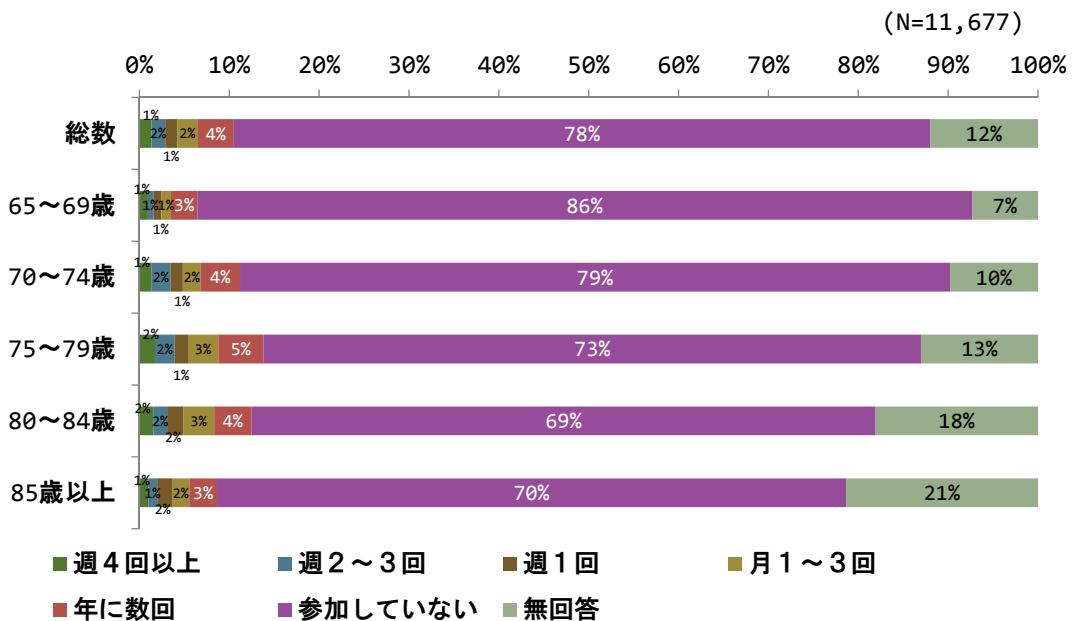
趣味関係のグループの参加

約4割の方が趣味関係のグループに参加している。



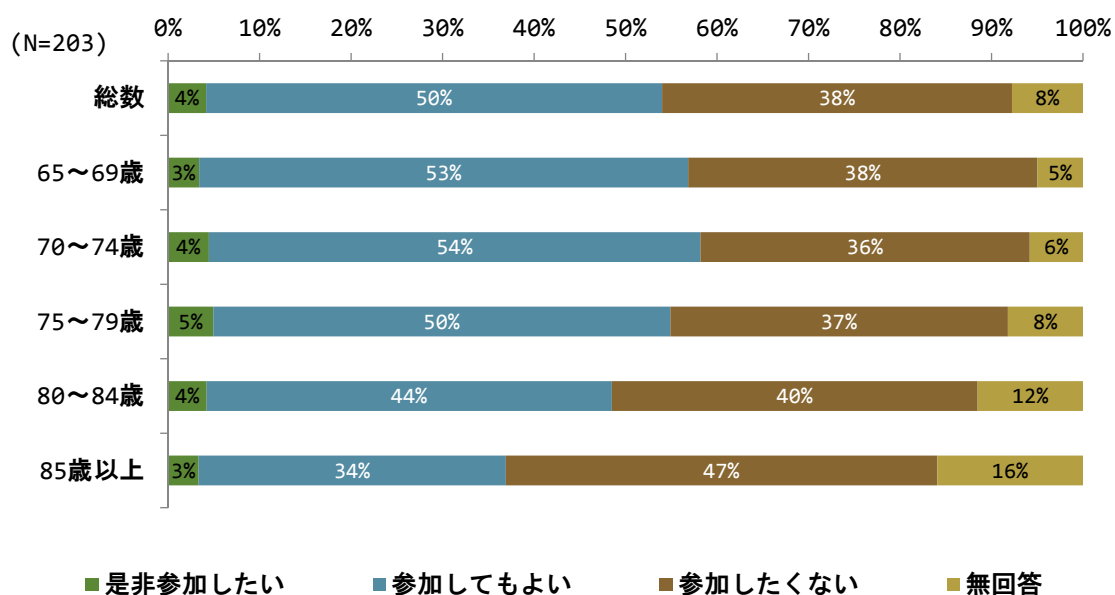
新規 介護予防・健康づくり活動への参加

介護予防・健康づくり活動へ「参加していない」が約8割となっている。



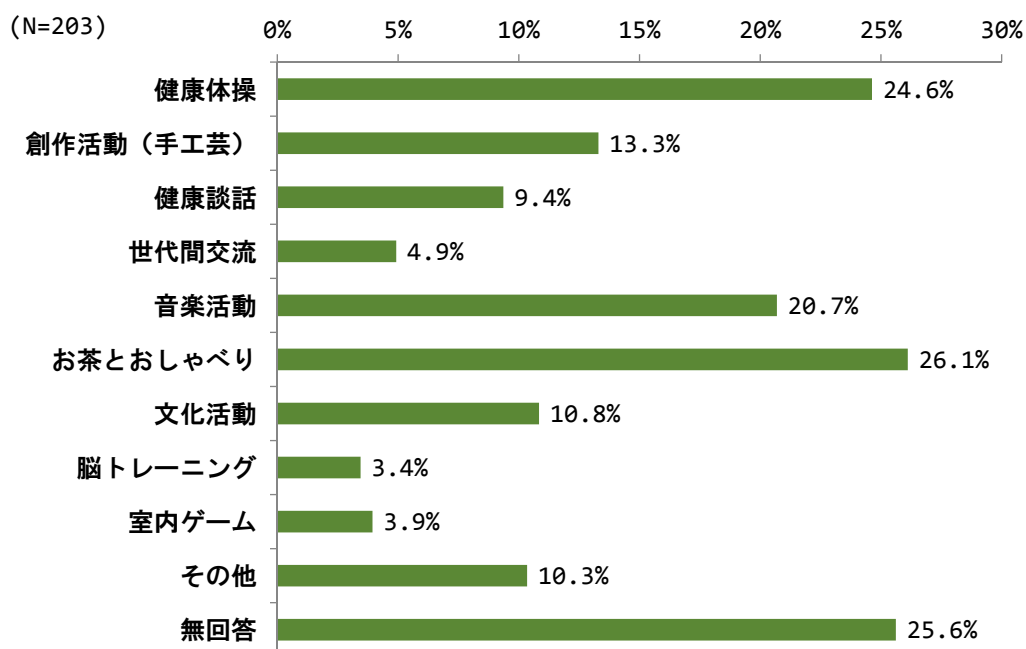
新規 地域住民によるグループ活動への参加希望

地域住民の有志による健康づくりや趣味等の活動等のグループ活動へ参加したいと思うかたずねたところ、「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせて54%となっている。



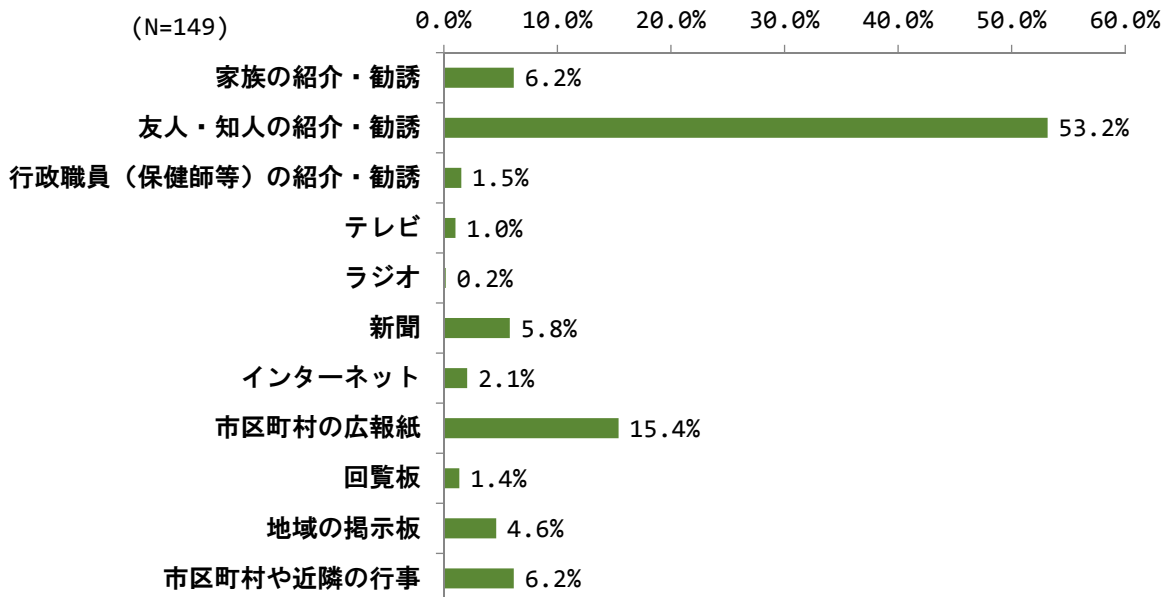
新規 サロン活動の参加プログラム

サロン活動で参加頻度が高いプログラムをたずねたところ、「お茶とおしゃべり」が最も多く26.1%、次いで「健康体操」24.6%、音楽活動20.7%となっている。（※3つまで回答可）



趣味グループに入ったきっかけ

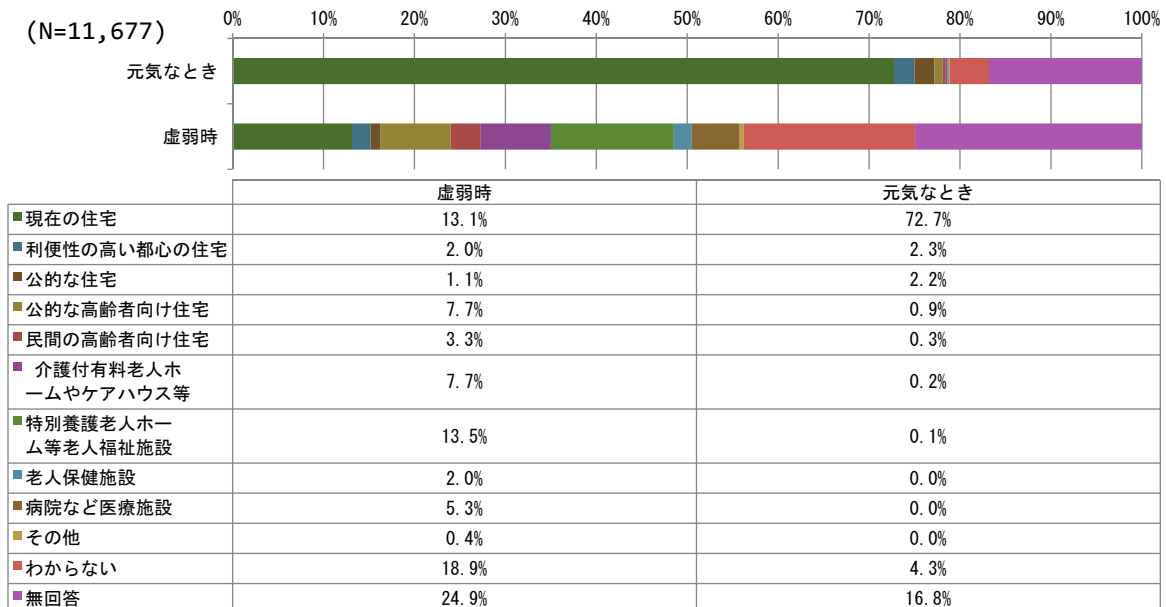
趣味関係のグループに入ったきっかけは、「友人・知人の紹介・勧誘」が53.2%と最も多くなっており、次いで「市区町村の広報紙」15.4%、「家族の紹介・勧誘」・「市区町村や近隣の行事」6.2%が多くなっている。



22

住まいの希望

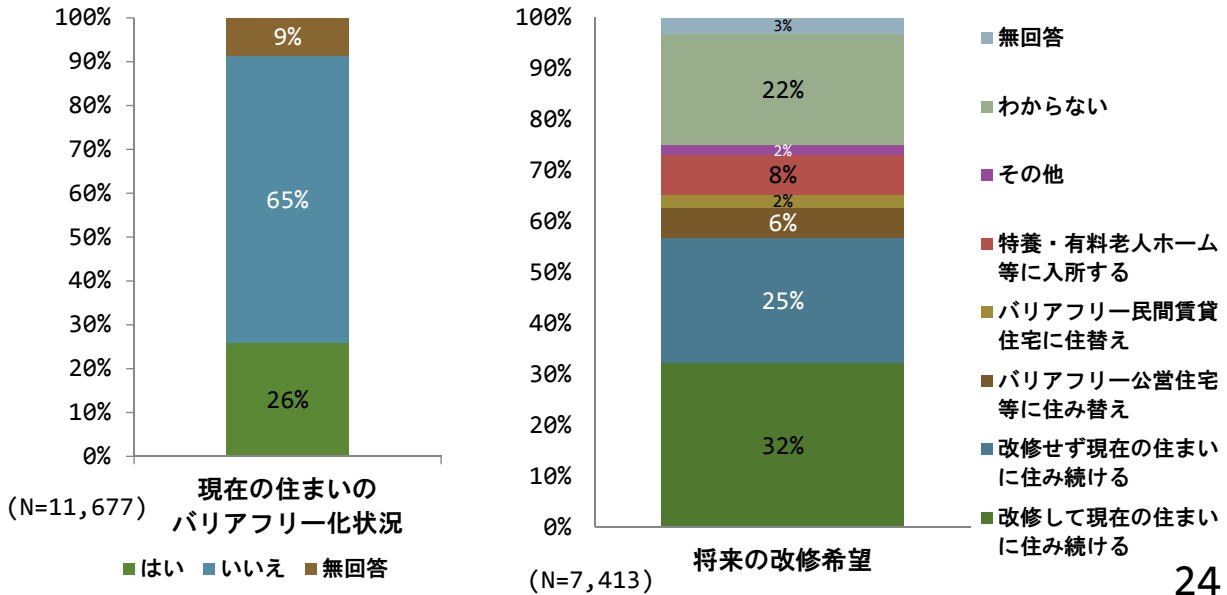
「お元気なとき」は「現在の住宅」が72.7%と特に高い割合となっている。「身体が虚弱化したときなど介護が必要となった場合」は、「現在の自宅」は13.1%まで減少し、「特別養護老人ホーム等老人福祉施設」が13.4ポイント、「公的な高齢者向け住宅」・「介護付き有料老人ホームやケアハウス等」が7.5ポイント増加している。



23

住まいのバリアフリー化

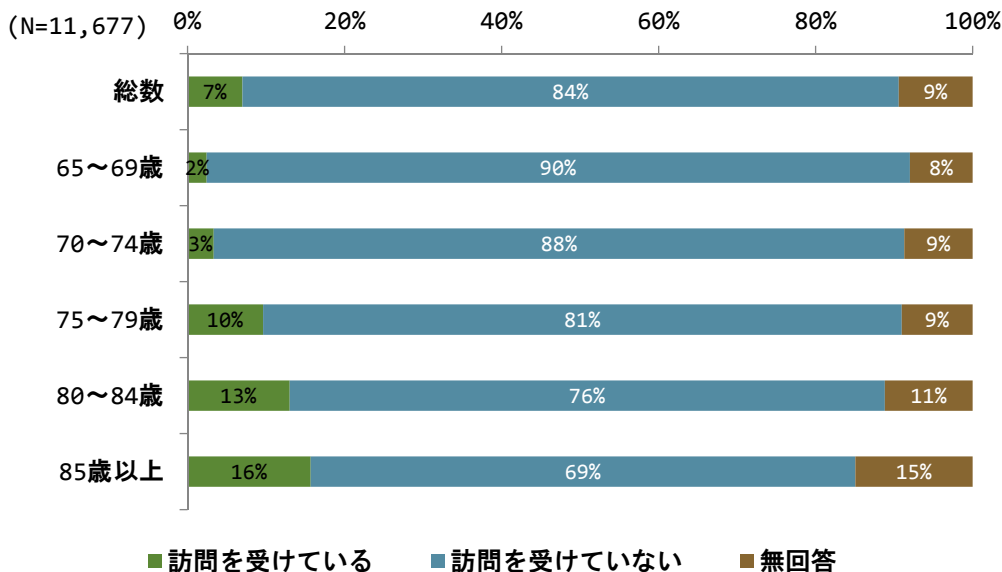
現在の住まいのバリアフリー化は十分かどうかについて、「はい」が26%、「いいえ」が65%となっている。「いいえ」と回答した方に、今後、体の機能が落ちてくるなどしてきた場合、どのようにしたいかたずねたところ、「改修して現在の住宅に住み続ける」が最も多く32%、次いで「改修せず現在の住まいに住み続ける」が25%となっており、合わせて約6割の方が現在の住まいに住み続けるとしている。



新規

民生委員の訪問

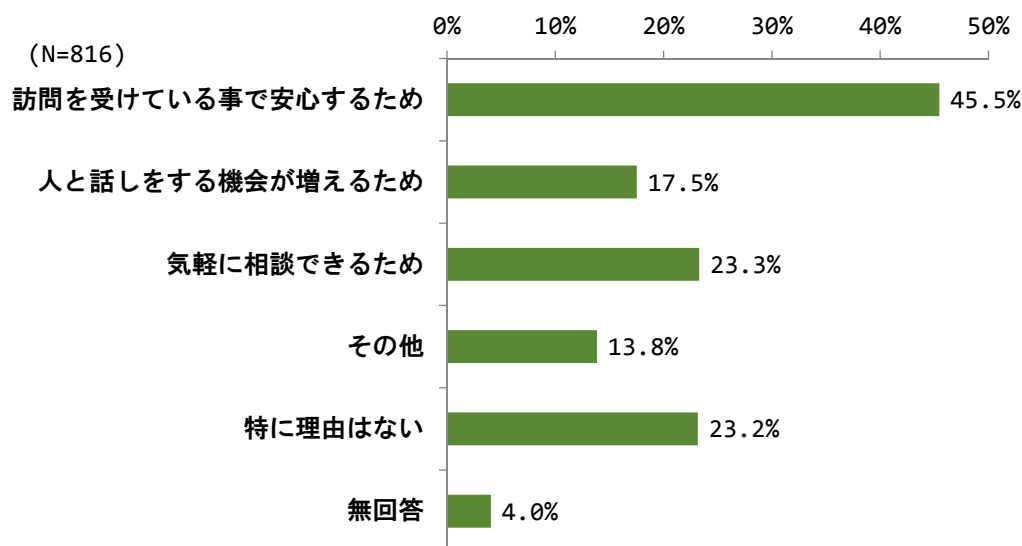
民生委員の訪問について、7%の方が訪問を受けていると回答している。年齢別にみると、「75～79歳」は10%、「80～84歳」は13%、「85歳以上」は16%が訪問を受けていると回答している。



新規

民生委員の訪問を受けている理由

民生委員の訪問を受けていると回答した方にその理由をたずねたところ、「訪問を受けていることで安心するため」が45.5%と最も多く、次いで「気軽に相談できるため」・「特に理由はない」23.3%、「人と話をする機会が増えるため」17.5%の順となっている。

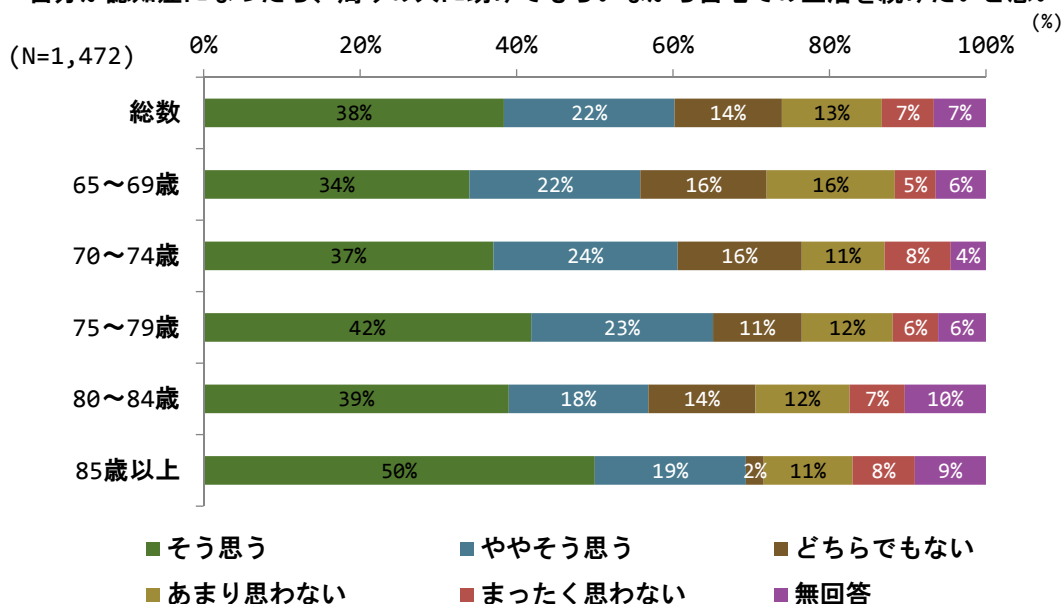


新規

認知症と在宅介護の希望

自分が認知症になったら、周りの人に助けをもらいながら自宅での生活を続けたいと思うかどうかたずねたところ、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて約6割となっている。一方、「あまり思わない」「まったく思わない」は合わせて約2割となっている。

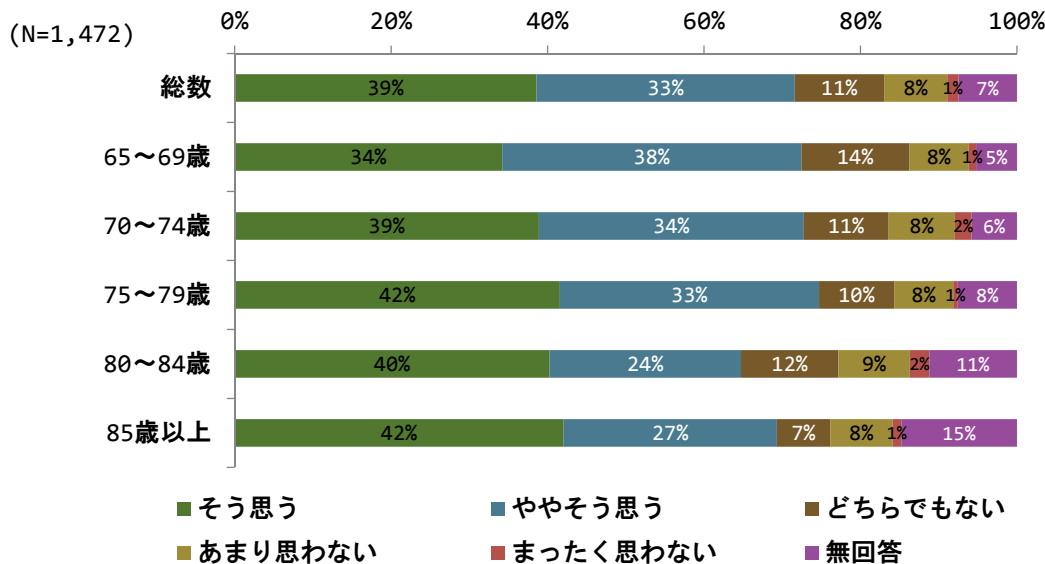
- 自分が認知症になったら、周りの人に助けをもらいながら自宅での生活を続けたいと思いますか。



認知症と周囲の協力

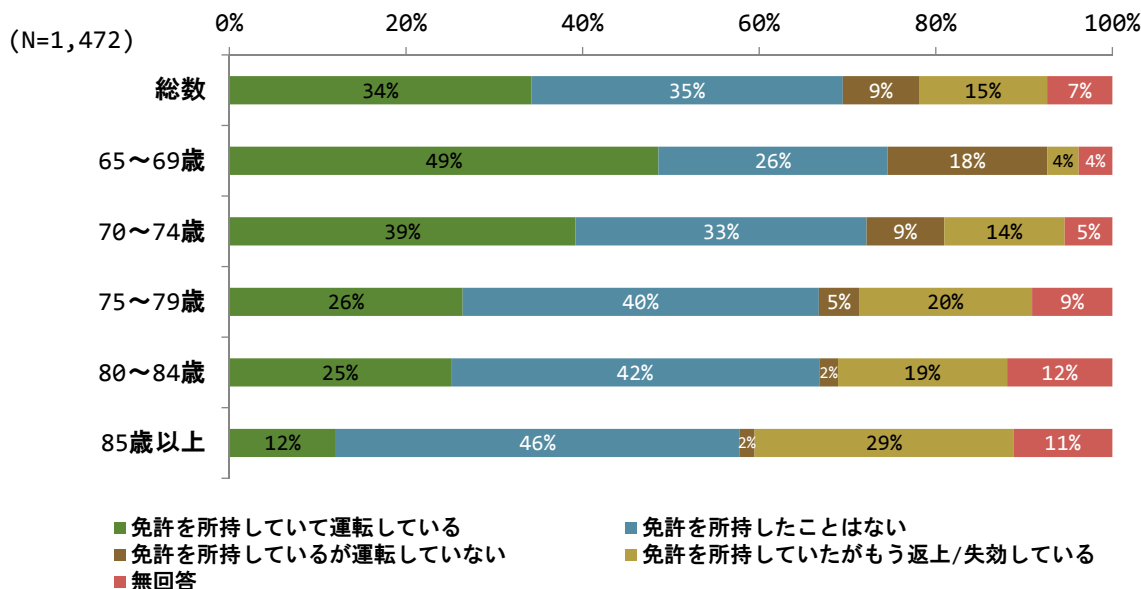
家族が認知症になったら、協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしいかどうかたずねたところ、「そう思う」「ややそう思う」は合わせて約7割となっている。一方、「あまり思わない」「全く思わない」は合わせて約1割となっている。

- 家族が認知症になったら、協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしいと思いますか。 (%)



運転免許の所持と自家用車の運転

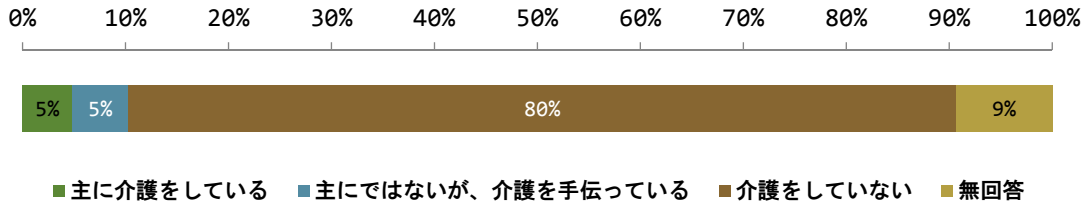
「免許を所持して運転している」方は、65～69歳では49%、70～74歳では39%、75～79歳では26%、80～84歳では25%、85歳以上では12%となっている。
 「免許を所持しているが運転していない」「免許を返上/失効した」を合わせた割合は、65歳～84歳では21%～25%となっているが、85歳以上になると31%（うち「返上/失効」が29%）となっている。



家族の介護

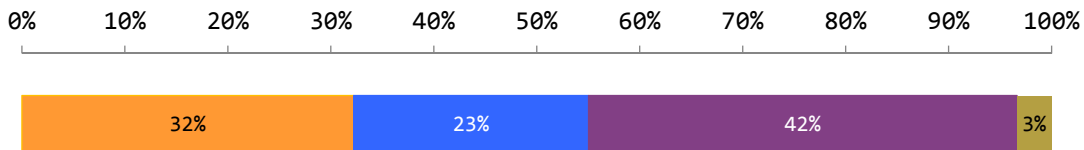
「主に介護をしている」「主にはないが、介護を手伝っている」を合わせた約1割の方が家族の介護をしていると回答しており、介護を受けている方に認知症と思われる症状があるかどうかをたずねたところ、「ある」と回答した方が55%となっている。

- 現在あなたはご家族の介護をしていますか。 (N=1,448)



■ 主に介護をしている ■ 主にはないが、介護を手伝っている ■ 介護をしていない ■ 無回答

- あなたが介護している方には認知症と思われる症状がありますか。 (N=149)

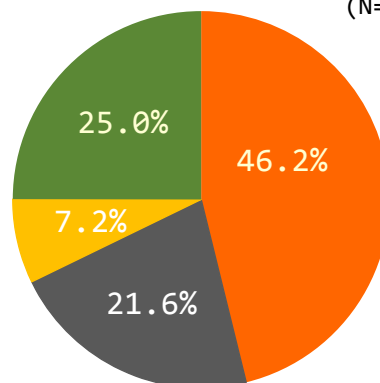


■ ある（医師から認知症と判断されている）
 ■ ある（そのような症状はあるが認知症の診断は受けていない）
 ■ ない
 ■ 無回答

介護保険料とサービスの考え方

今後の介護保険料について最も近い考えをたずねたところ、「介護保険サービスの内容の見直しやサービスを利用した人の負担を増やすことなどにより、介護保険料を抑制するべき」が46.2%と最も多く、次いで「介護保険サービスの現状を維持する」21.6%、「介護保険サービスをさらに充実させる。それにより、介護保険料がより高くなっても仕方がない。」7.2%の順となっている。なお、無回答は25%となっている。

(N=11,677)



■ 介護保険サービスの見直しやサービス利用者の負担を増やすなどにより、介護保険料を抑制するべき
 ■ 介護保険サービスの現状を維持する（高齢化が進む分だけ介護保険料は高くなる）
 ■ 介護保険サービスをさらに充実させる。そのために、介護保険料が高くなっても仕方がない
 ■ 無回答

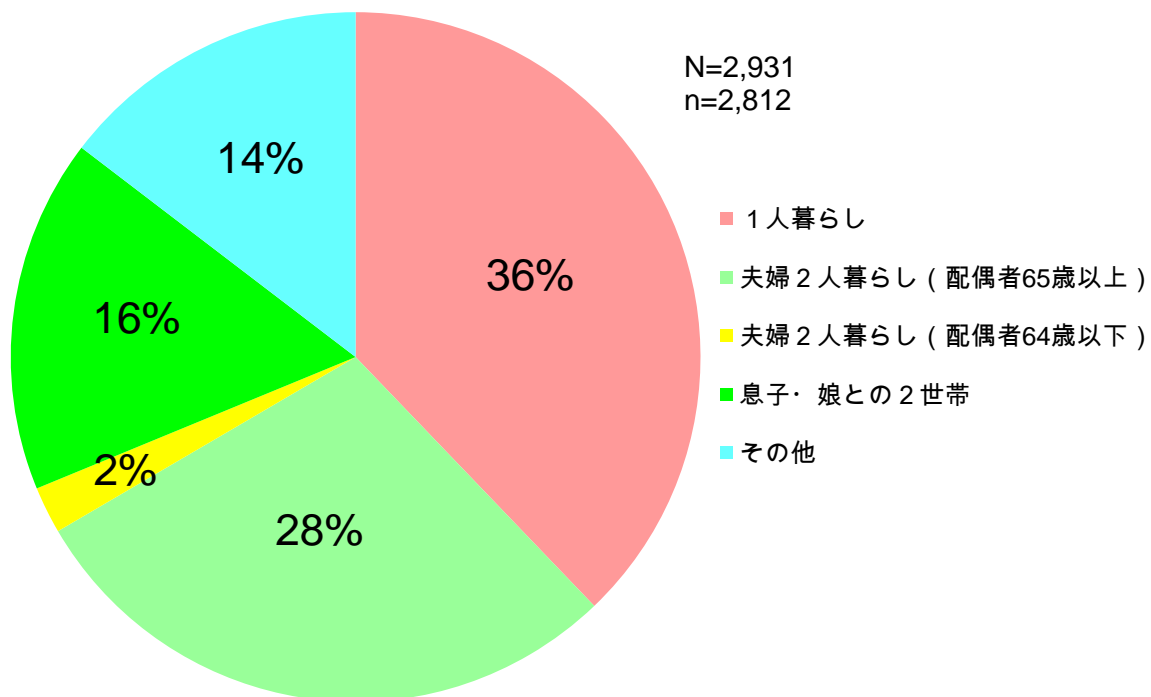
第7期神戸市介護保険事業計画策定に向けての実態調査結果

(中間報告)

在宅高齢者実態調査

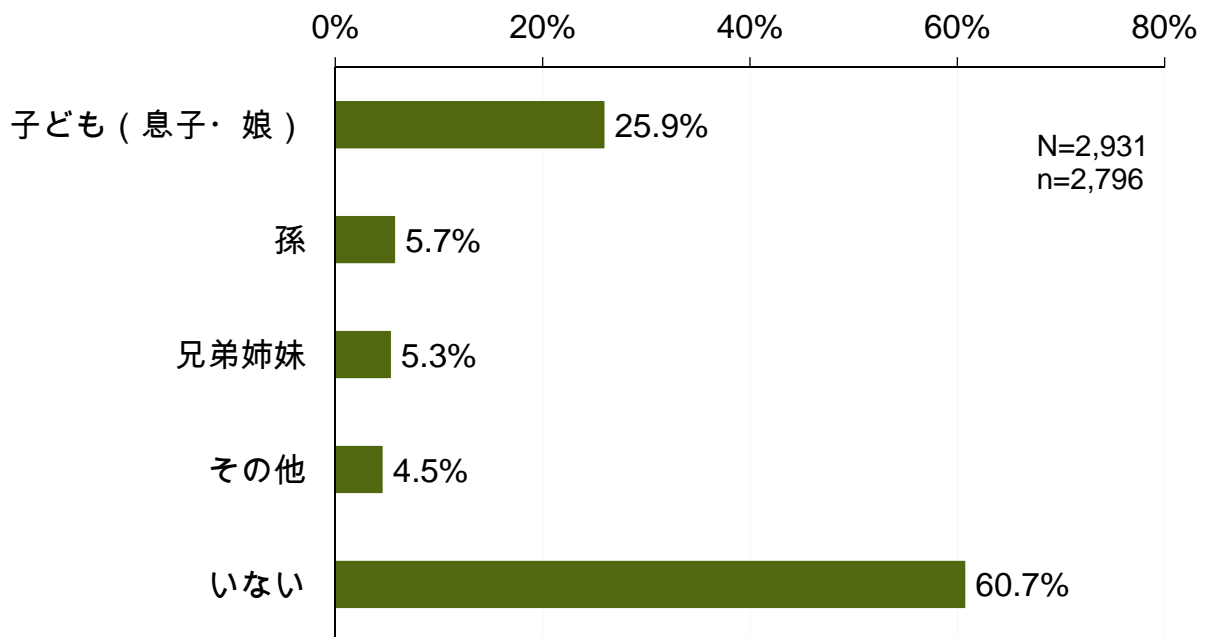
世帯構成

単身世帯が36%、ともに65歳以上の夫婦のみ二世帯が28%となっている。



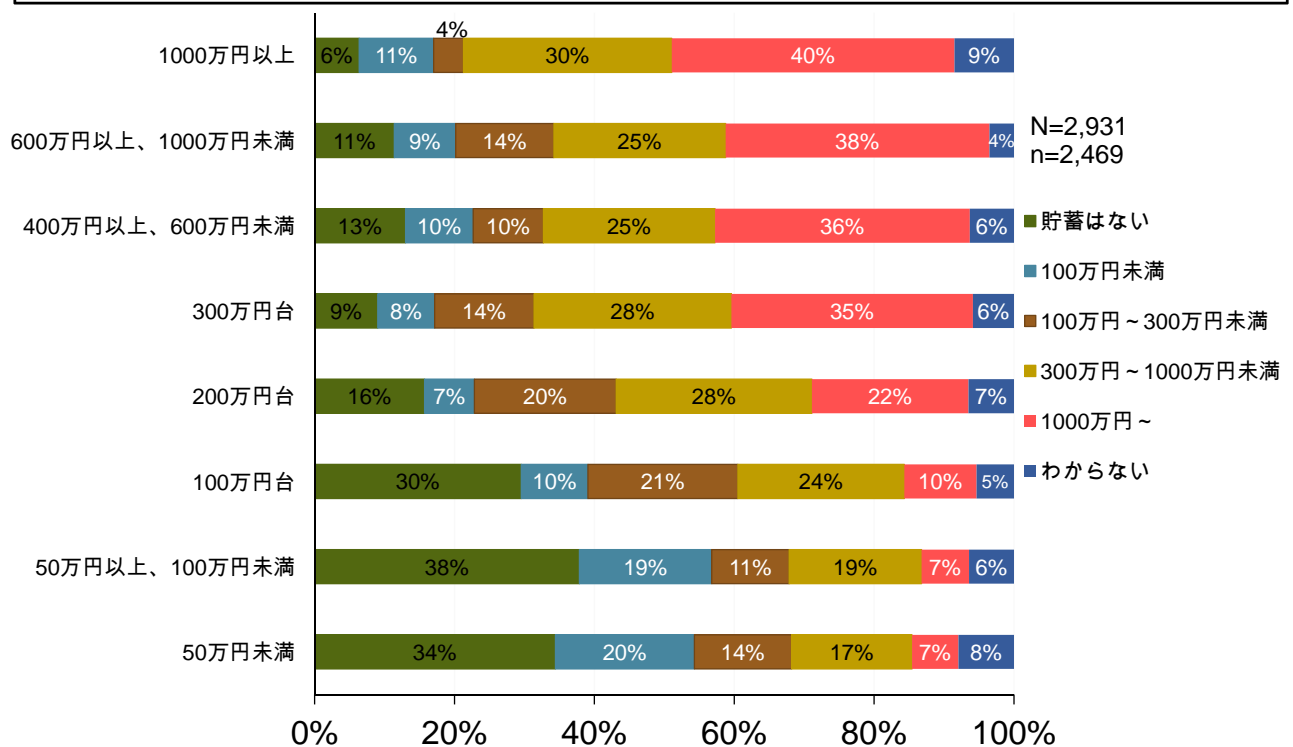
近隣に居住する親族

歩いて15分以内ぐらいの距離に住んでいる親族はいるかたずねたところ、「いない」と回答した割合は約6割となっている。



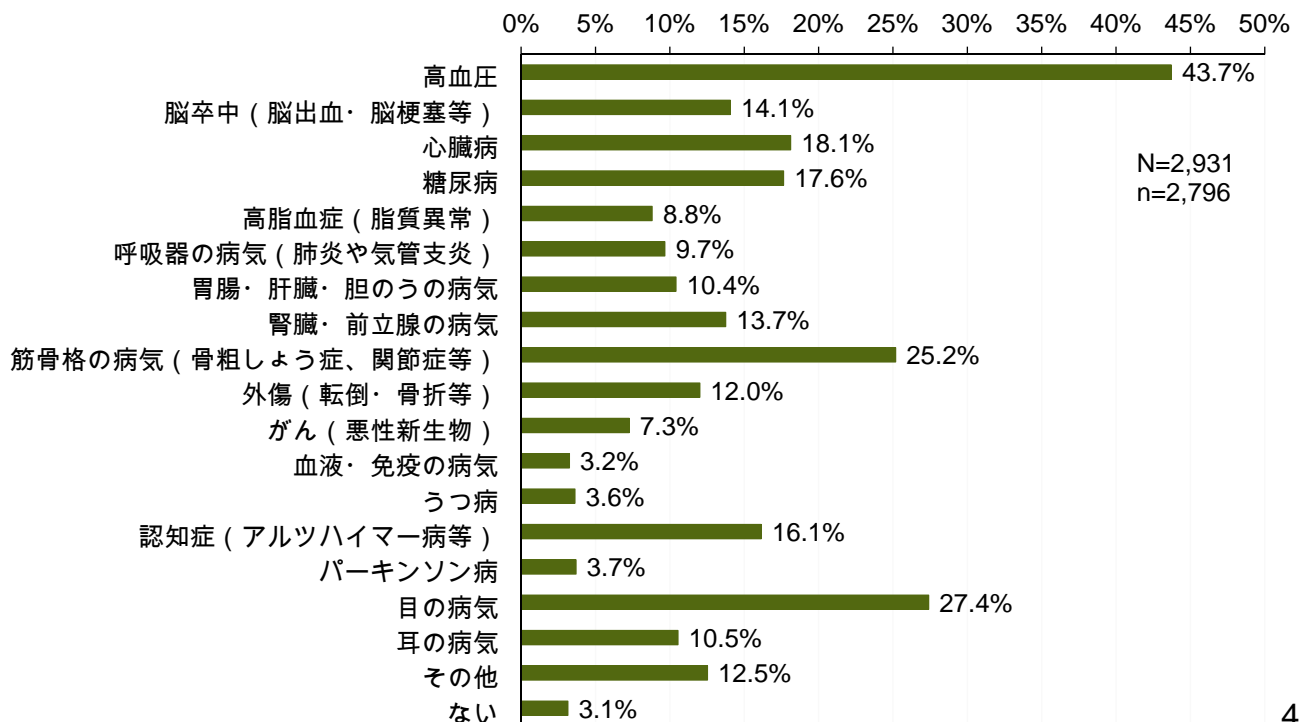
収入／貯蓄額

世帯収入200万円未満では「貯蓄額はない」が30～38%となっている。世帯収入300万円以上では貯蓄額「1000万円以上」が35～40%となっている。



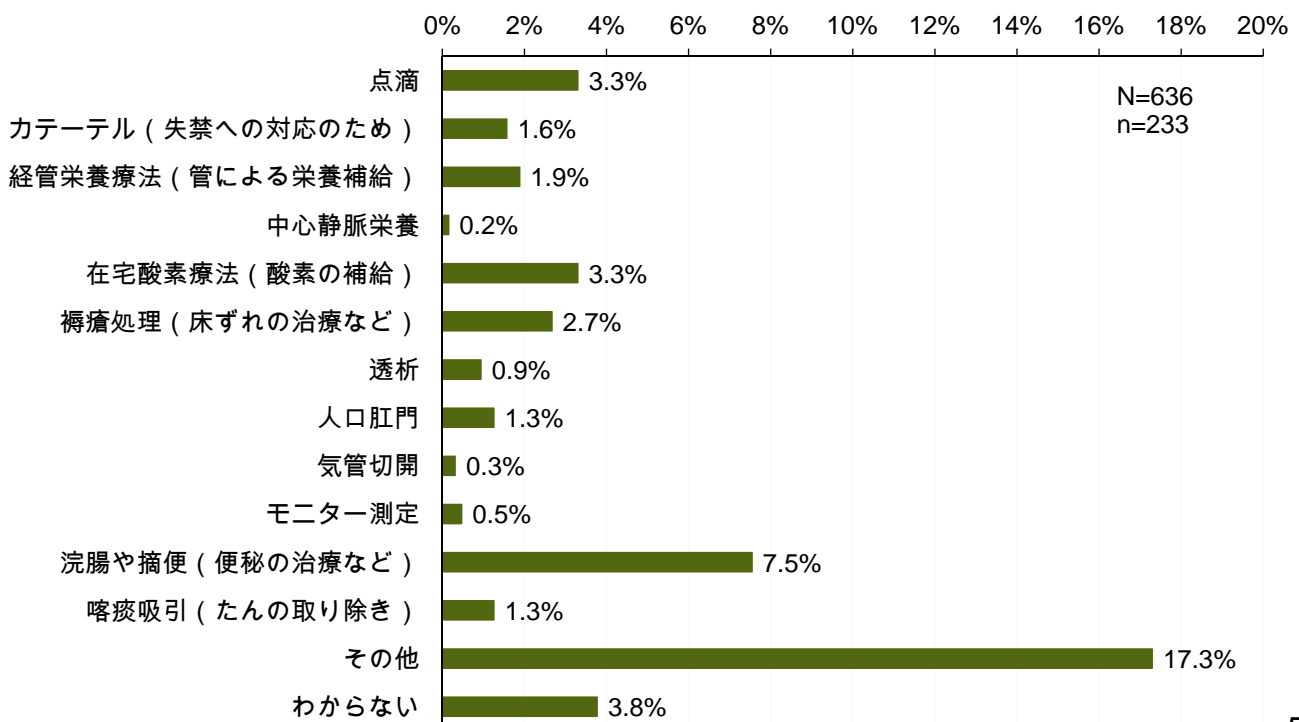
罹患状況

病気で最も多いものは、「高血圧」で43.7%、次いで「目の病気」27.4%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」25.2%、「心臓病」18.1%、「糖尿病」17.6%、「認知症（アルツハイマー病等）」16.1%が多くなっている。



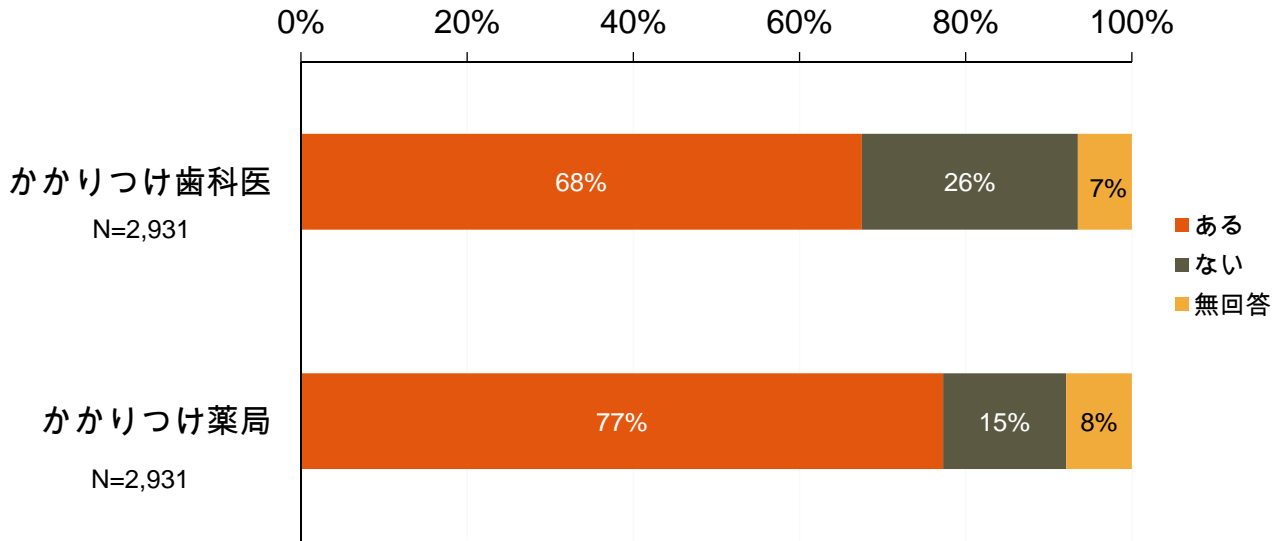
自宅での治療等

自宅で医師等による治療や指導を受けている方は21.7%。自宅で受けている医療の種類として最も多いのは、「浣腸や摘便」7.5%、次いで「点滴」・「在宅酸素療法（酸素の補給）」3.3%、「褥瘡処理」2.7%が多くなっている。



かかりつけ歯科医・薬局

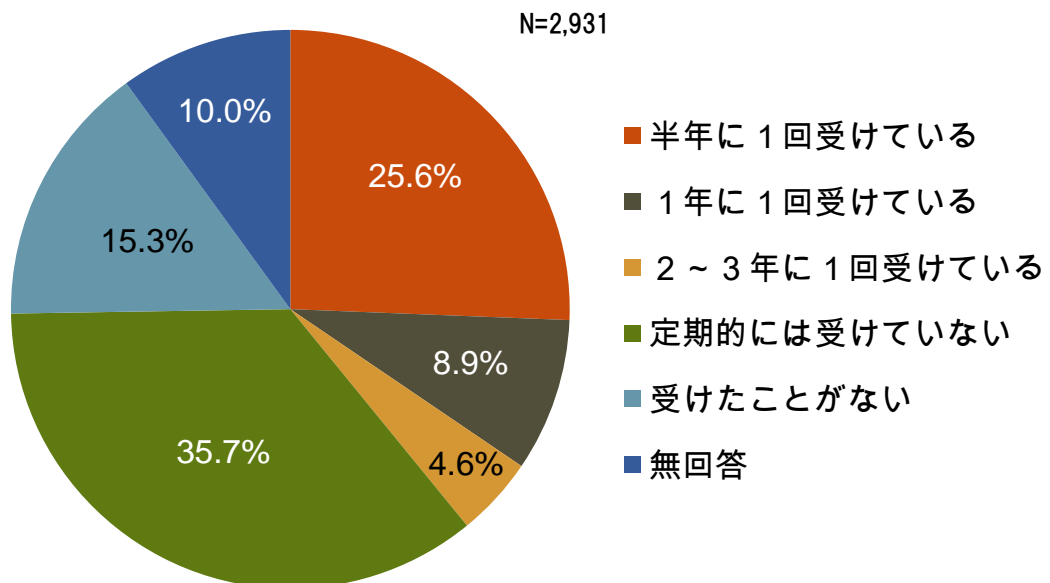
約7割の方が、かかりつけ歯科医師が「いる」と回答している。
約8割の方が、かかりつけ薬局が「ある」と回答している。



6

歯科検診の受診率

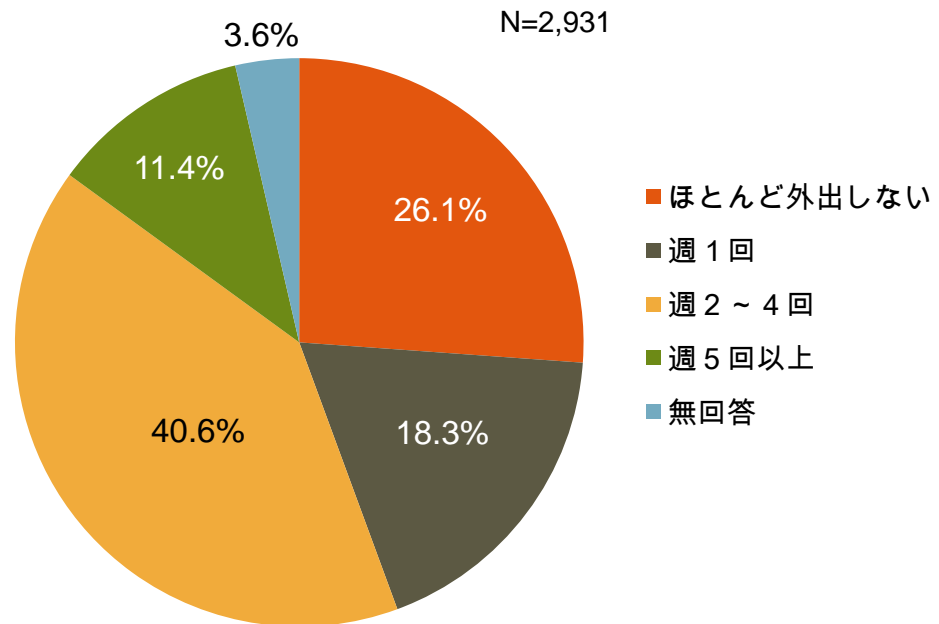
約35%の方が1年に1回以上歯科検診を受診している一方、「定期的には受けていない」「受けたことがない」が合わせて約5割となっている。



7

外出頻度

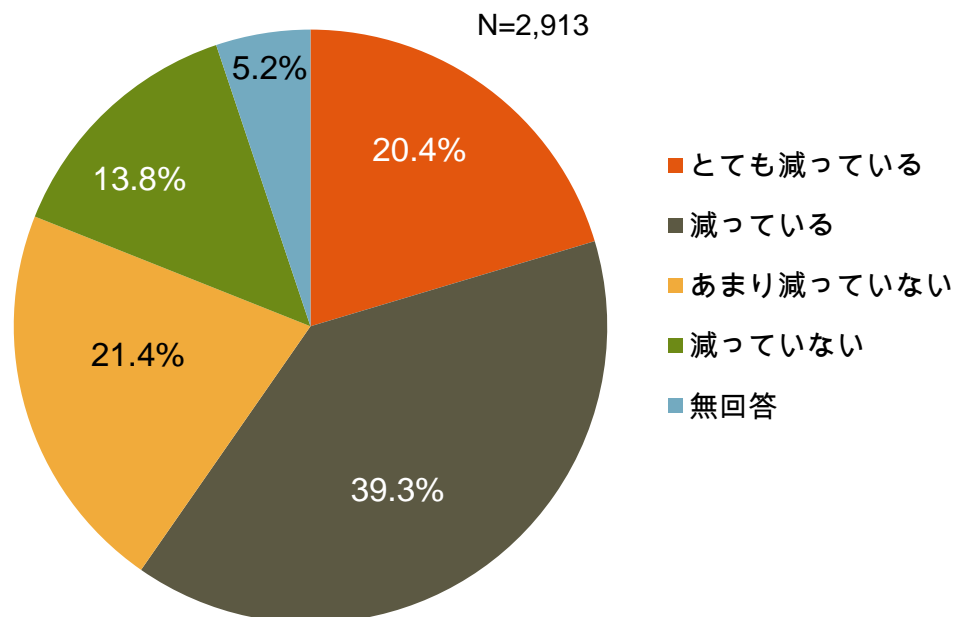
「週に2～4日」が40.6%と最も多い。「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせると44.4%となっている。



8

外出の増減

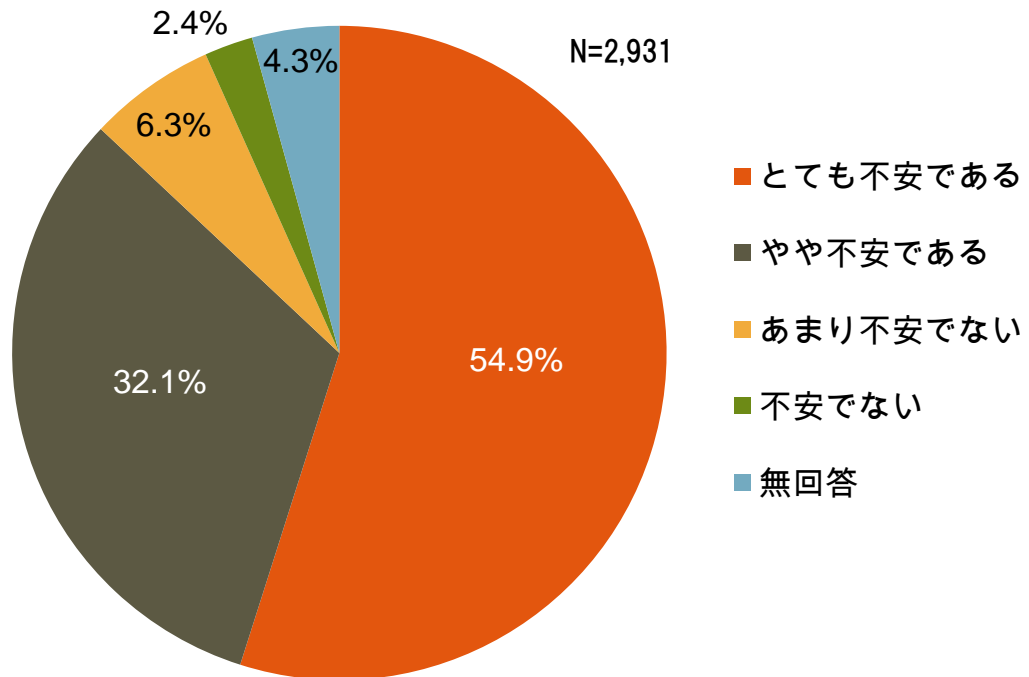
昨年と比べて外出の回数が減っているかどうかをたずねたところ、「とても減っている」「減っている」が合わせて59.7%となっている。「あまり減っていない」「減っていない」は合わせて35.2%となっている。



9

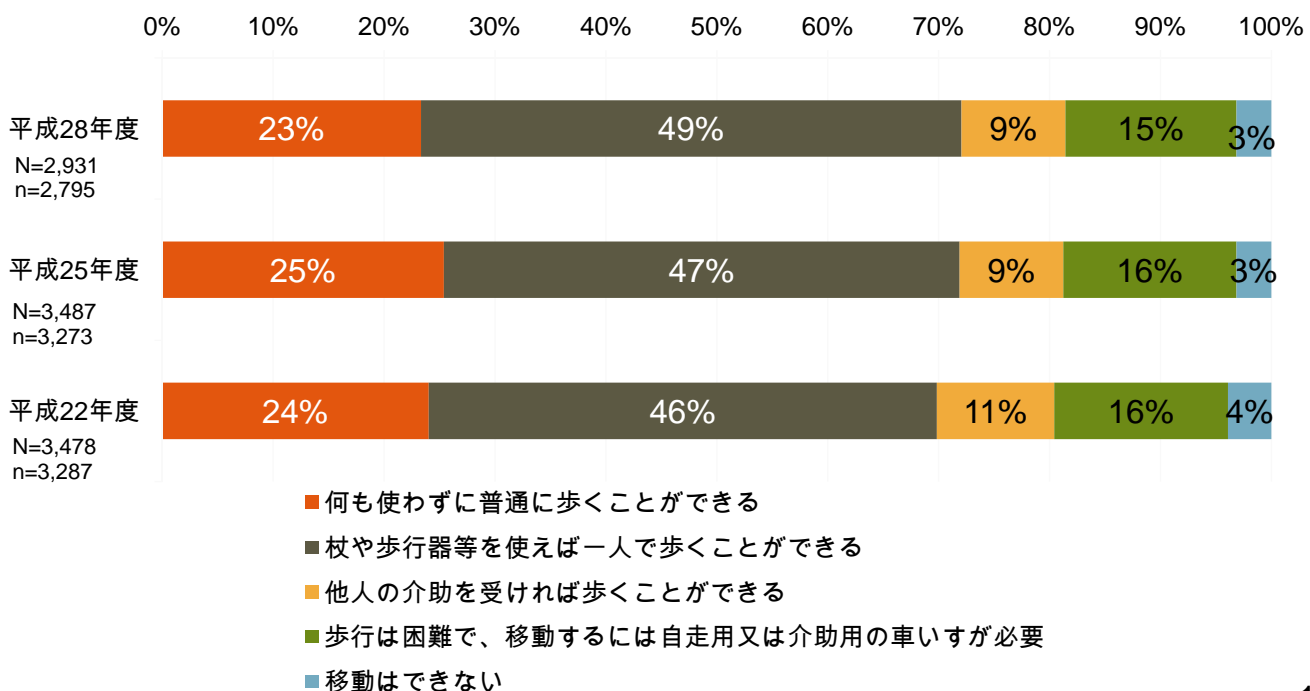
転倒に対する不安

「とても不安である」と回答した方が54.9%となっている。これに「やや不安である」を合わせた87.0%の方が転倒に対する不安を持っている。



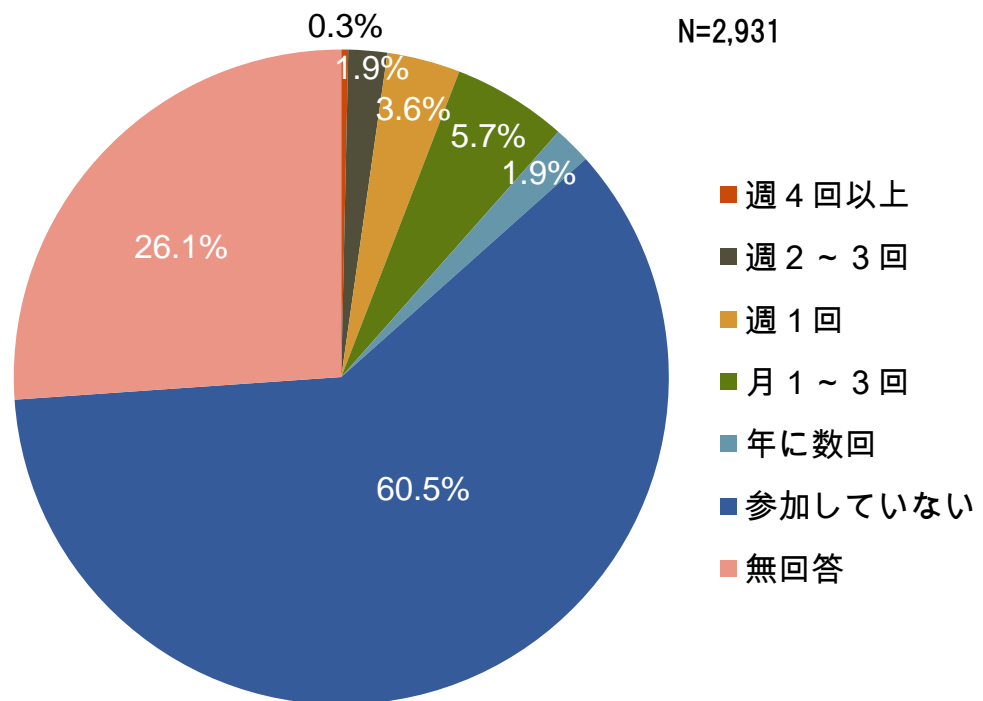
身体状況

前回調査と比較して、(A)「杖や歩行器等を使えば一人で歩くことができる」が2ポイント増加し、(B)「何も使わずに普通に歩くことができる」が2ポイント減少している。(A)(B)を合わせた約7割の方が一人で歩くことができると回答している。



趣味のグループへの参加頻度

趣味のグループには、13.4%の方が参加しているが、約6割の方は「参加していない」と回答している。

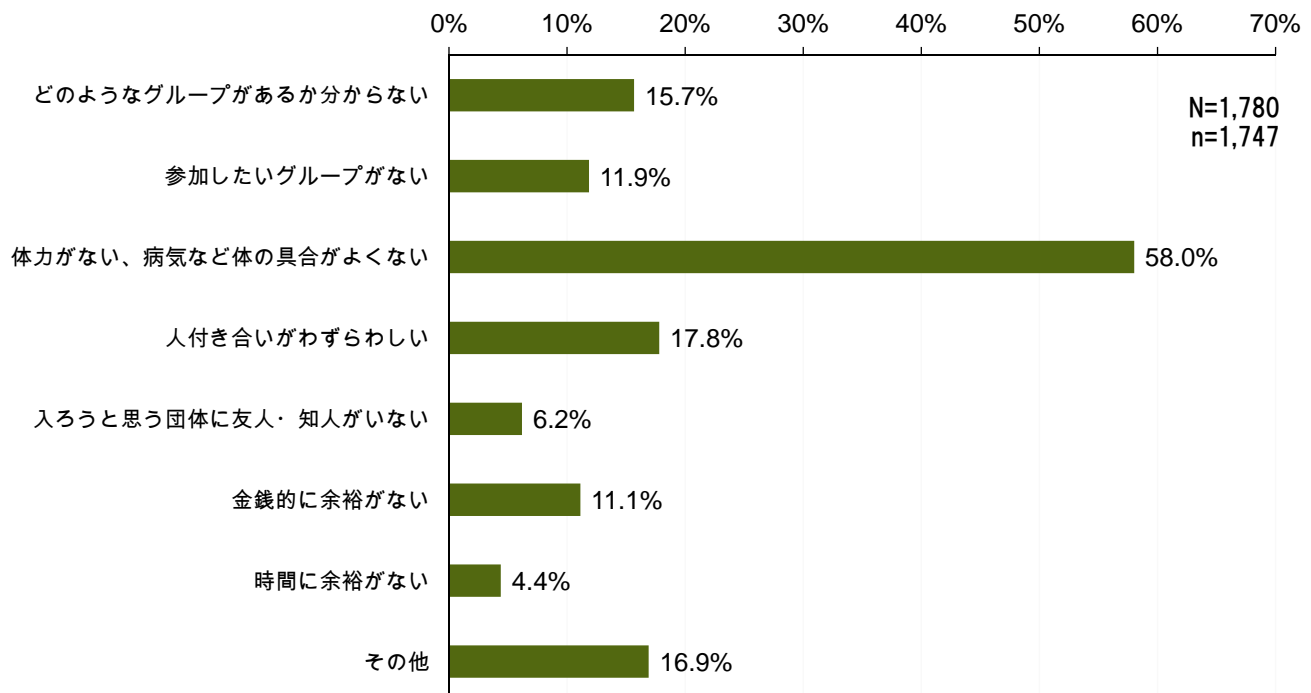


12

新規

会・グループに参加していない理由

いずれの会・グループにも参加していない方に参加していない理由をたずねたところ、「体力がない、病気など体の具合がよくない」が最も多く58.0%となっている。「どのようなグループがあるか分からない」と答えた方は15.7%となっている。

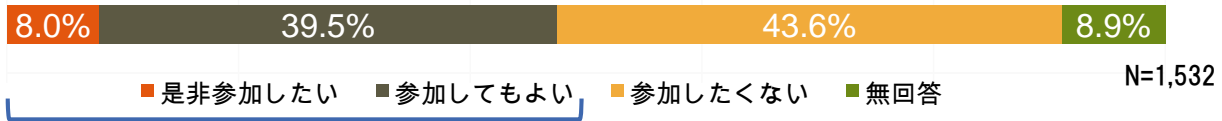


13

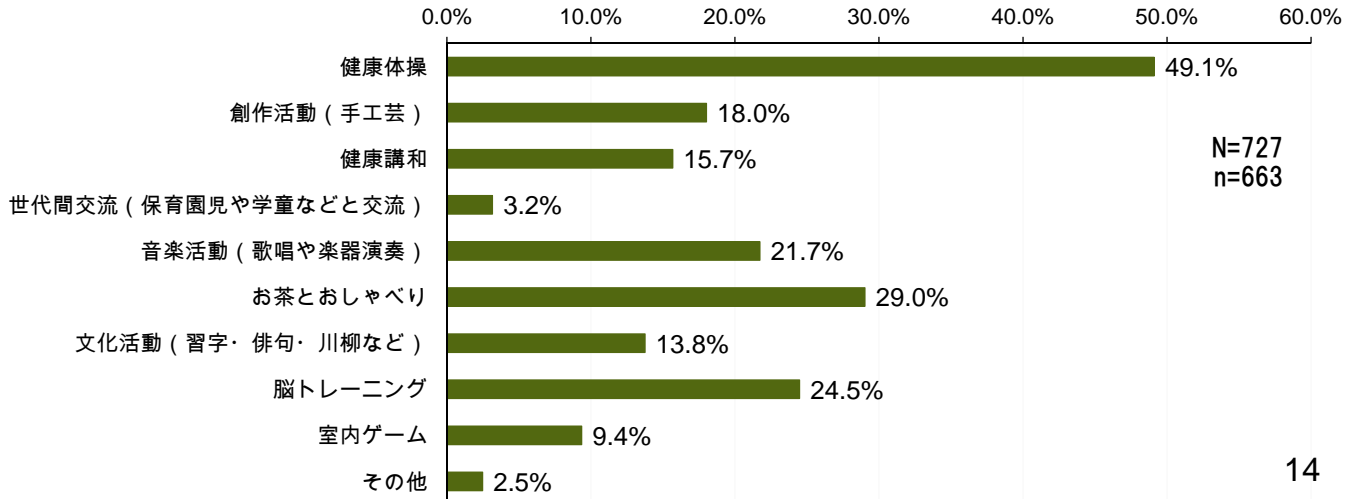
地域住民によるグループ活動への参加希望

約5割の方が、「参加したい」又は「参加してもよい」と回答している。参加したい又は参加してみたい活動は、「健康体操」が49.1%と最も多く、次いで「お茶とおしゃべり」29.0%、「脳トレーニング」24.5%、「音楽活動」21.7%が多くなっている。

○地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加したいか。(要支援者のみ)



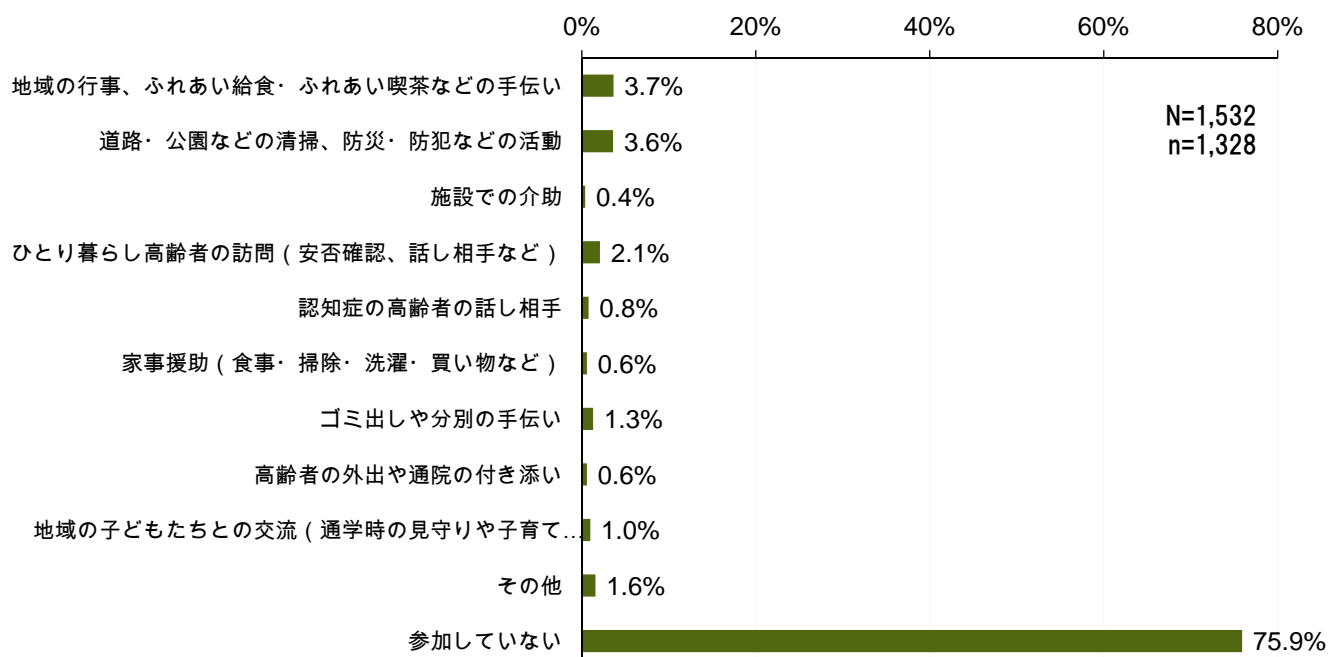
○参加したい又は参加してもよいと思うグループ活動



地域で参加しているボランティア活動

<要支援者>

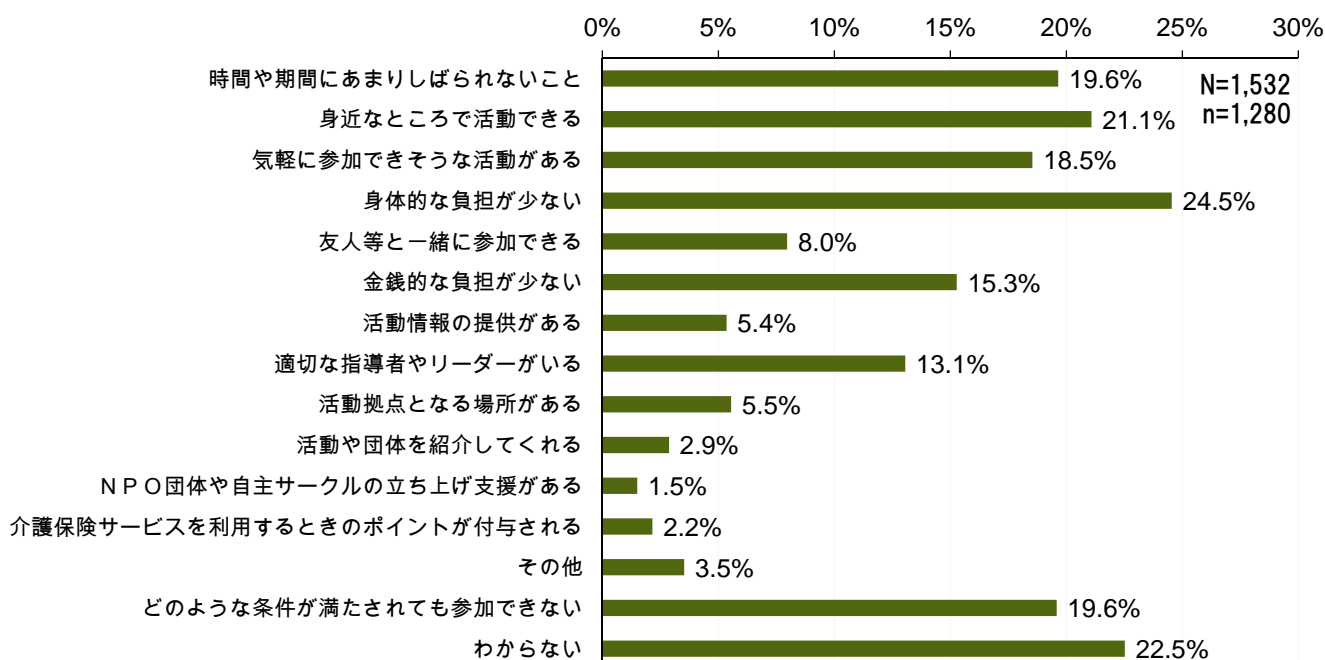
地域のボランティア活動には、75.9%の方が「参加していない」と回答している。参加している活動では、「地域の行事、ふれあい給食・喫茶などの手伝い」3.7%、「道路・公園などの清掃、防災・防犯などの活動」3.6%、「一人暮らしの高齢者の訪問」2.1%の順に多くなっている。



ボランティアへの参加条件

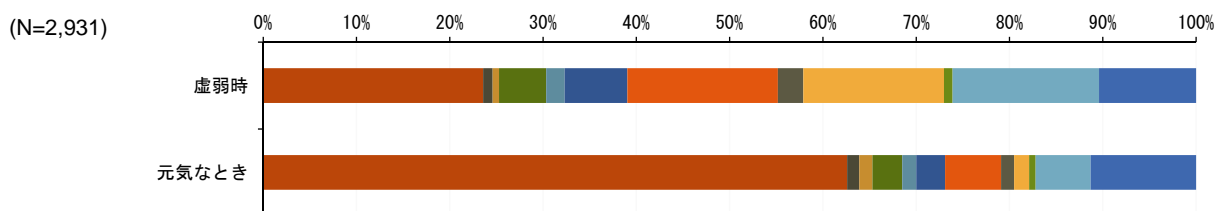
<要支援者>

ボランティアに参加したり今以上に参加するための条件をたずねたところ、最も多いのが「身体的な負担が少ない」で24.5%、次いで「身近なところで活動できる」21.1%、「時間や期間にあまりしばられないこと」19.6%、「気軽に参加できそうな活動がある」18.5%が多くなっている。一方、「どのような条件が満たされても参加できない」との回答が19.6%ある。



住まいの希望

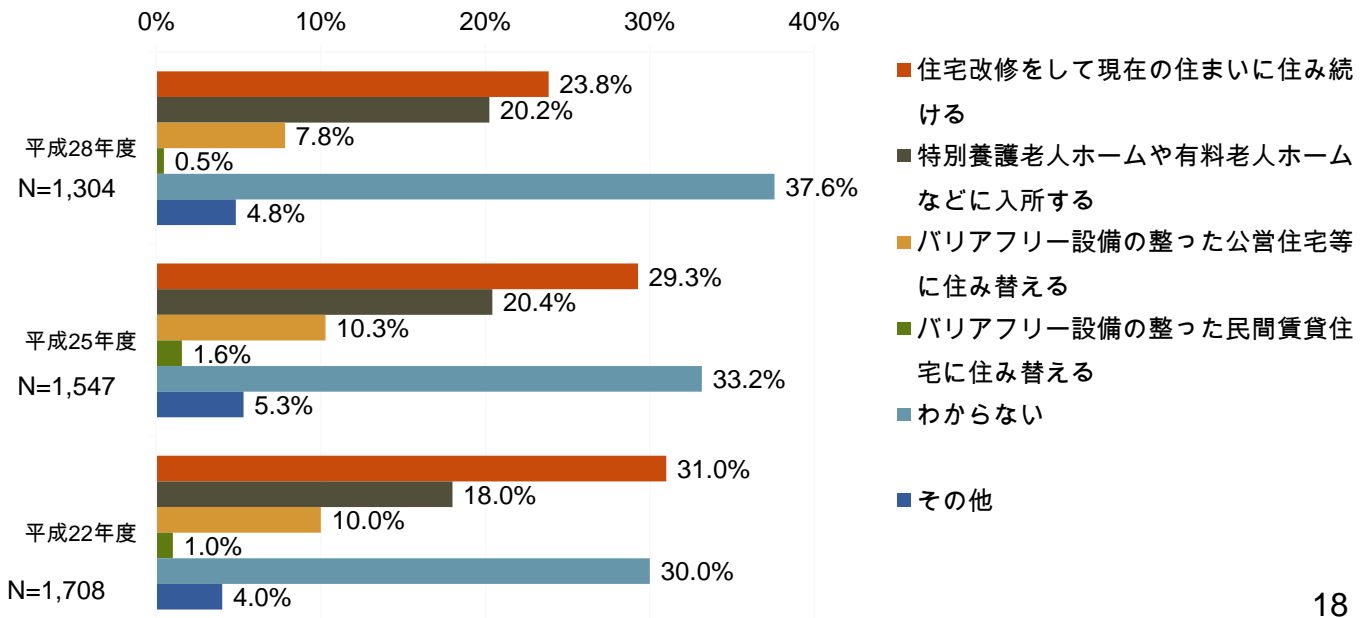
「お元気なとき」は「現在の住宅」が62.6%となっている。「身体が虚弱化したときなど介護が必要となった場合」については、「現在の自宅」は23.6%に減少し、「特別養護老人ホーム等老人福祉施設」が10.1ポイント、「病院などの医療施設」が13.5ポイント増加している。



	元気なとき	虚弱時
■現在の住宅	62.6%	23.6%
■利便性の高い都心の住宅	1.3%	1.0%
■公的な住宅	1.4%	0.7%
■公的な高齢者向け住宅	3.2%	5.0%
■民間の高齢者向け住宅	1.5%	2.0%
■介護付有料老人ホーム等以外の世帯	3.1%	6.7%
■特別養護老人ホーム等老人福祉施設	6.0%	16.1%
■老人保健施設	1.4%	2.7%
■病院など医療施設	1.6%	15.1%
■その他	0.7%	0.9%
■わからない	5.9%	15.7%
■無回答	11.3%	10.4%

住まいのバリアフリー化の意向

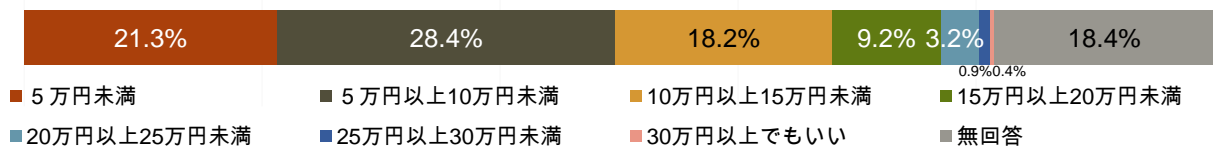
住まいのバリアフリー化が「十分だと思わない」と回答した方に、今後の意向をたずねたところ、「住宅改修をして現在の住まいに住み続ける」が23.8%、「特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所する」が20.2%となっている。
 前回調査との比較では、「住宅改修をして現在の住まいに住み続ける」が5.5ポイント減少している。



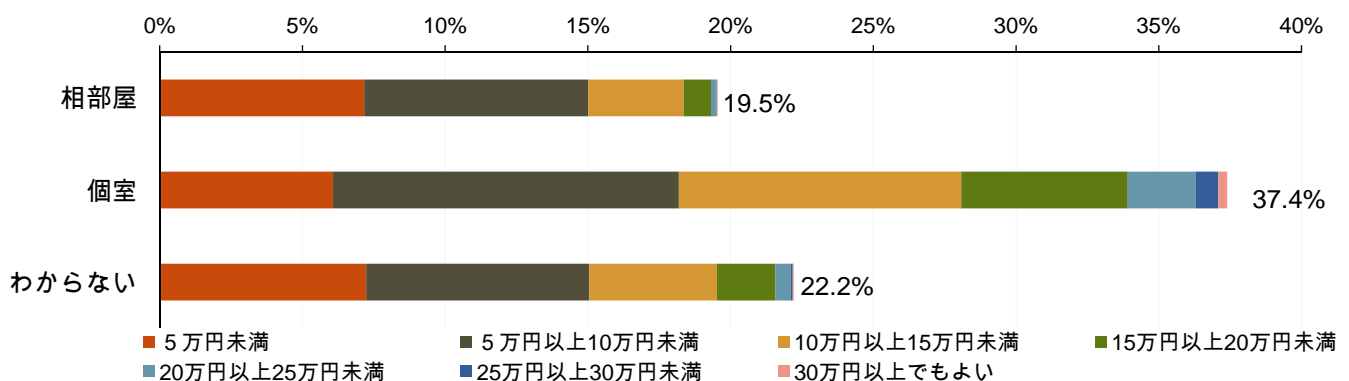
特別養護老人ホームの毎月の負担可能額

毎月の支払い可能額は、「5～10万円」が28.4%と最も多く、次いで「5万円未満」21.3%、「10～15万円」18.2%、「20～25万円」9.2%の順に多くなっている。
 個室と相部屋の概ねの負担額を紹介したうえで、個室・相部屋のどちらを選択するかたずねたところ、37.4%の方が「個室」、19.5%の方が「相部屋」と回答している。

○特別養護老人ホームに住替えたり、入所する場合、毎月の支払いはいくらまで負担できるか。 N=2,931

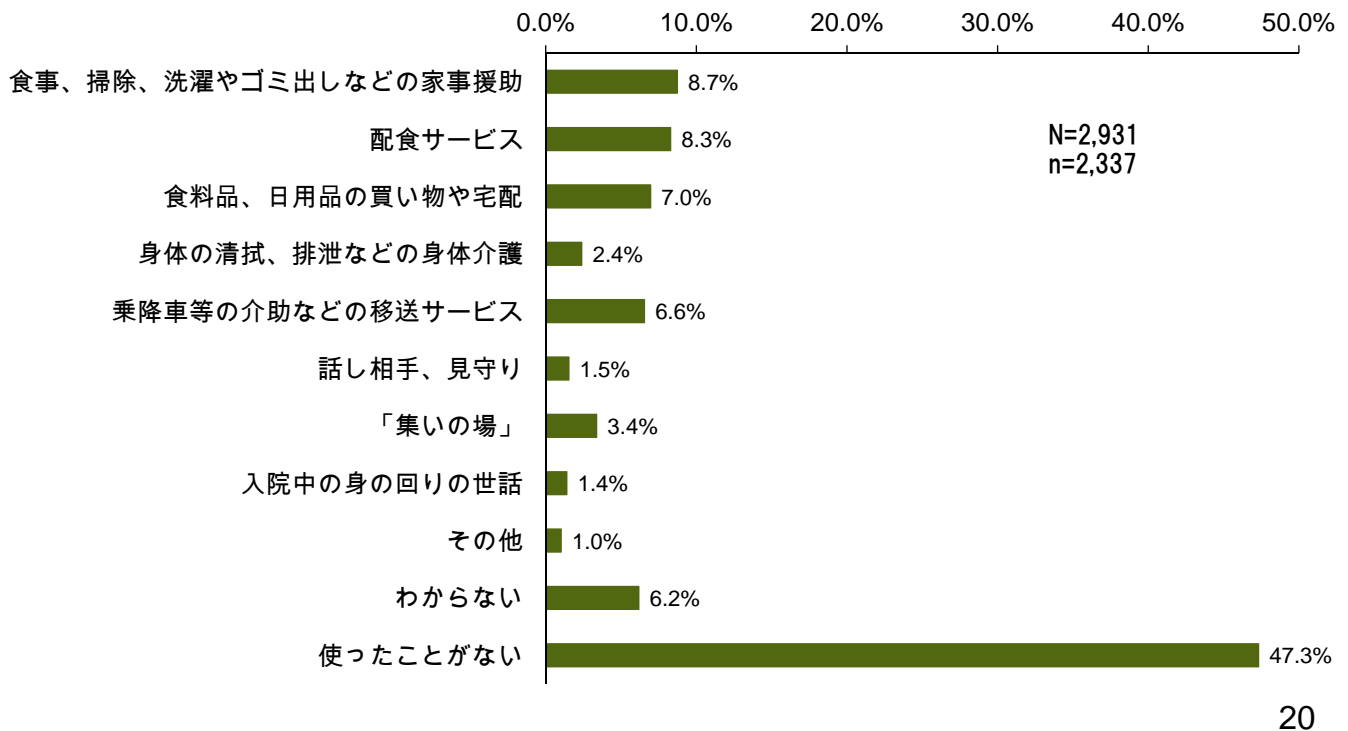


○特別養護老人ホームに入所することになった場合に個室・相部屋のどちらを希望するか。 N=2,454 n=2,391



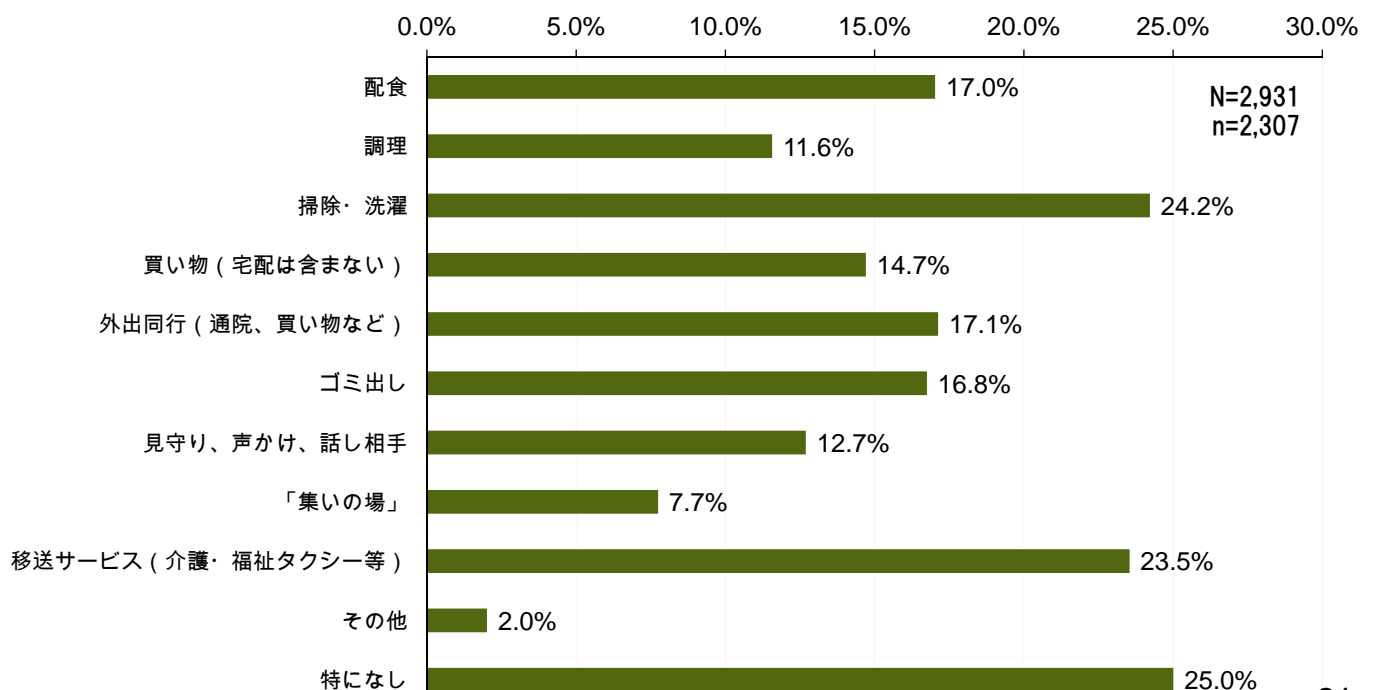
インフォーマルサービスの利用

「食事、掃除、洗濯やゴミ出しなどの家事援助」8.7%、「配食サービス」8.3%、「食料品、日用品の買い物や宅配」7.0%、「乗降車等の介助などの移送サービス」6.6%の順になっている。一方、「使ったことがない」方が47.3%となっている。



在宅生活の継続に必要な支援・サービス

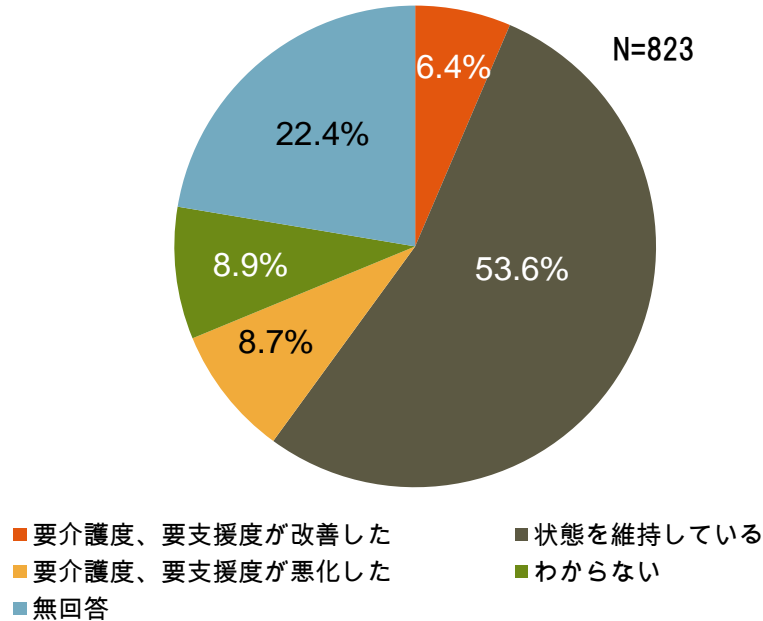
在宅生活の継続に必要な又はさらなる充実が必要と感じるサービスをたずねたところ、「掃除・洗濯」が24.2%と最も多く、次いで「移送サービス」23.5%、「外出同行」17.1%、「配食」17.0%、「ゴミ出し」16.8%が多くなっている。



通所介護利用者の改善状況

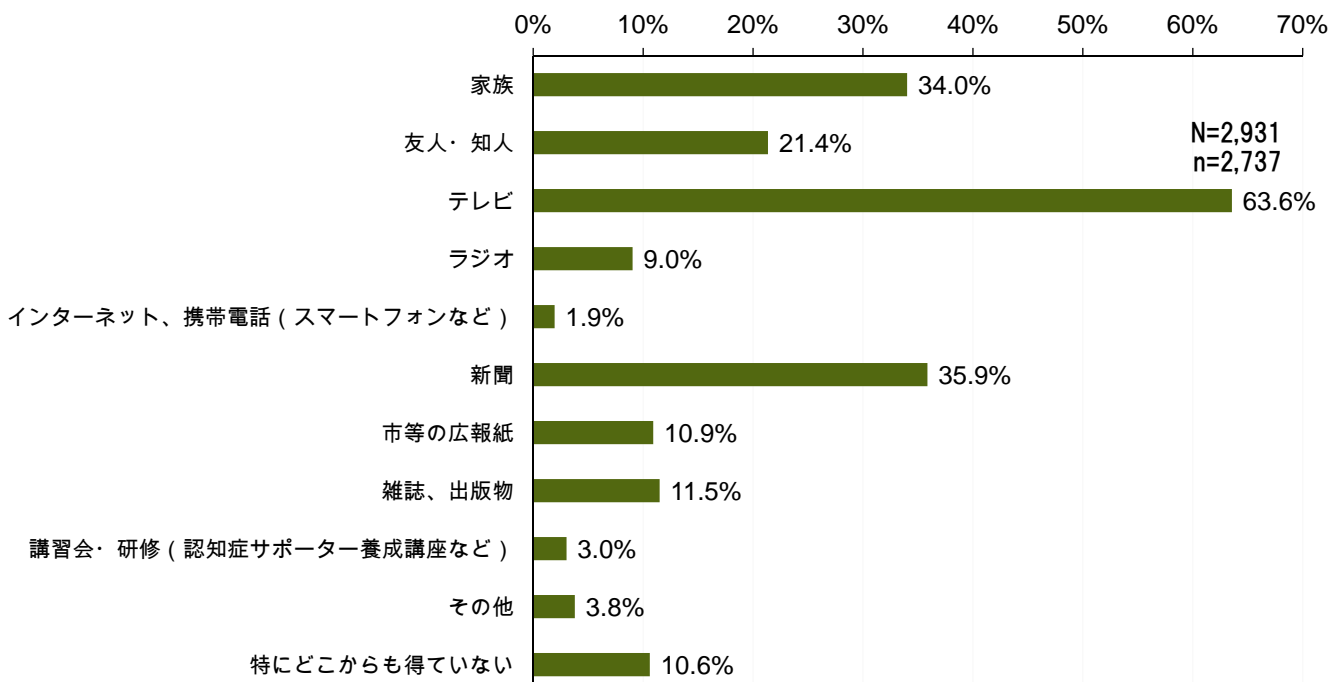
通所介護、認知症対応型通所介護を1年以上利用されている方に、この1年間で状態は改善したかどうかをたずねたところ、「要介護度、要支援度が改善した」と回答した方は6.4%、「状態を維持している」が53.6%、「要介護度、要支援度が悪化した」が8.7%となっている。

- この1年間で、あなたの状態は改善しましたか。(通所介護、認知症対応型通所介護を1年以上利用されている方)



認知症に関する情報の入手先

認知症に関する情報の入手先として、「テレビ」63.6%、「新聞」35.9%、「家族」34.0%、「友人・知人」21.4%の順に多くなっている。



新規

認知症に関する心配ごと・相談相手

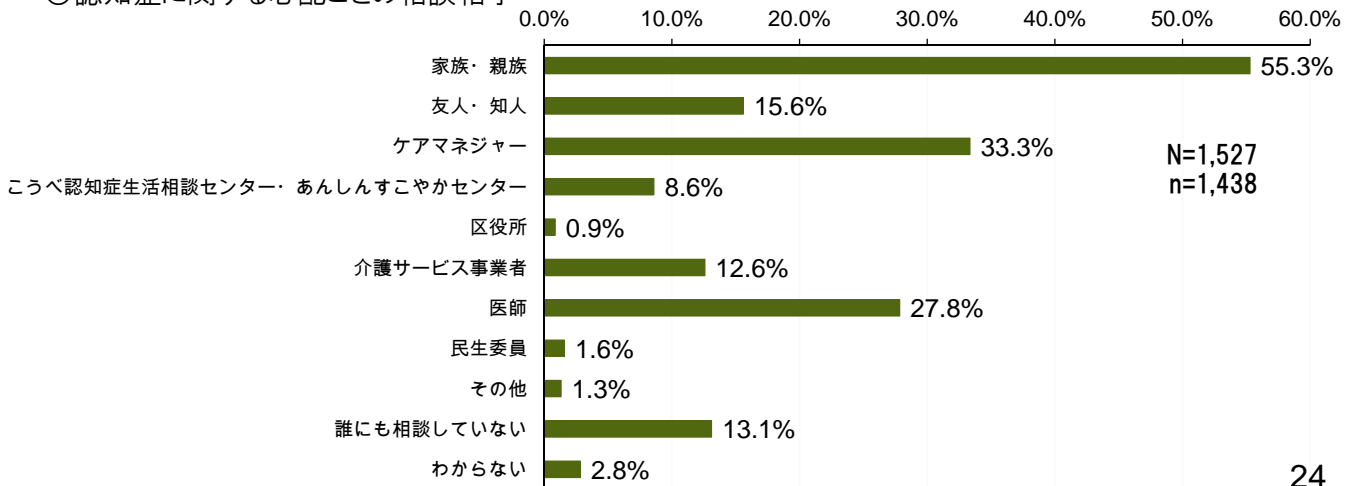
認知症に関する心配ごとが「ある」と回答した方が約5割おられる。それらの方の認知症に関する相談相手は、「家族・親族」が55.3%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」33.3%、「医師」27.8%が多くなっている。一方、「誰にも相談していない」方が13.1%おられる。

○認知症に関する心配ごとの有無

N=2,931



○認知症に関する心配ごとの相談相手

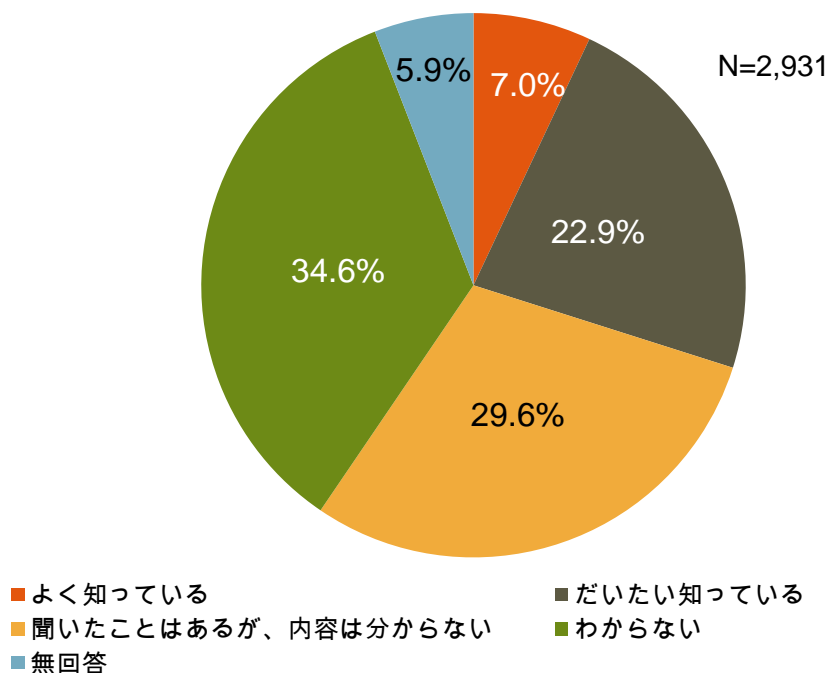


24

新規

成年後見人制度の認知度

成年後見人制度を「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した方は合わせて29.9%となっている。一方、「聞いたことはあるが、内容は分からない」「わからない」と回答した方は合わせて64.2%となっている。

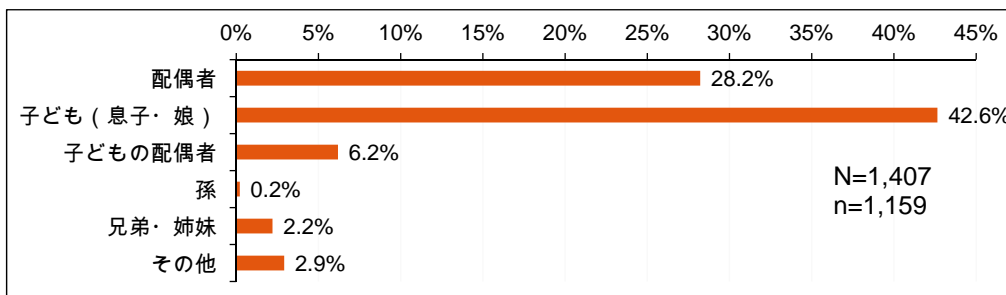


25

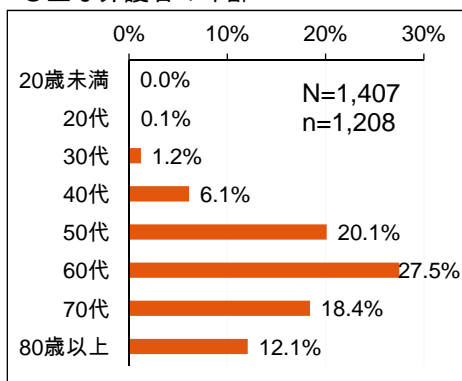
介護者の状況

主な介護者の続柄は、「子ども」が42.6%、「配偶者」が28.2%となっており、性別でみると、「男性」32%、「女性」68%となっている。年齢は、「60代」が最も多く27.5%、次いで「50代」20.1%、「70代」18.4%が多くなっており、「80歳以上」も12.1%となっている。

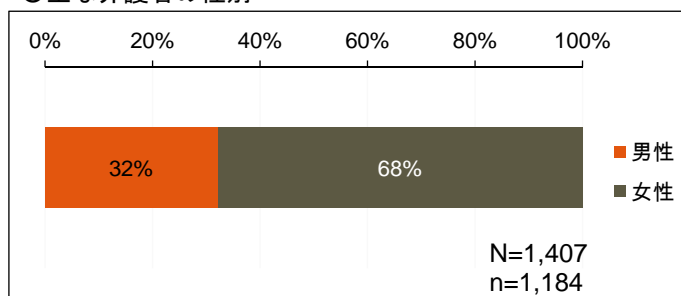
○主な介護者の続柄



○主な介護者の年齢



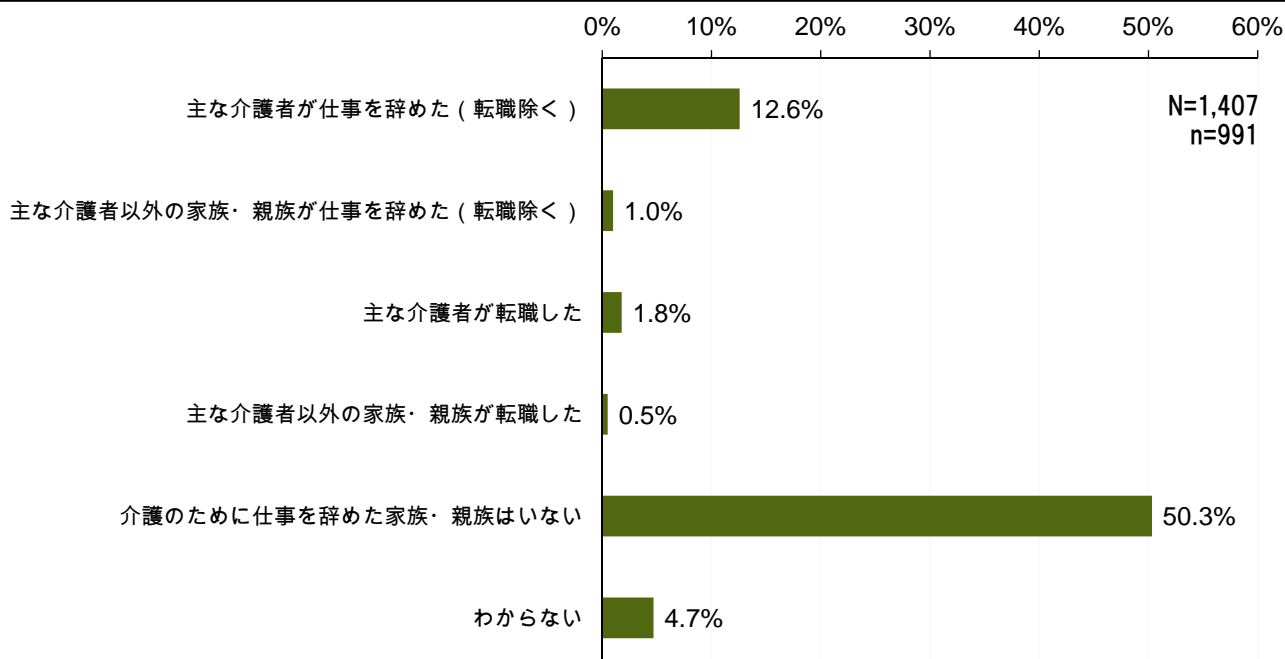
○主な介護者の性別



新規

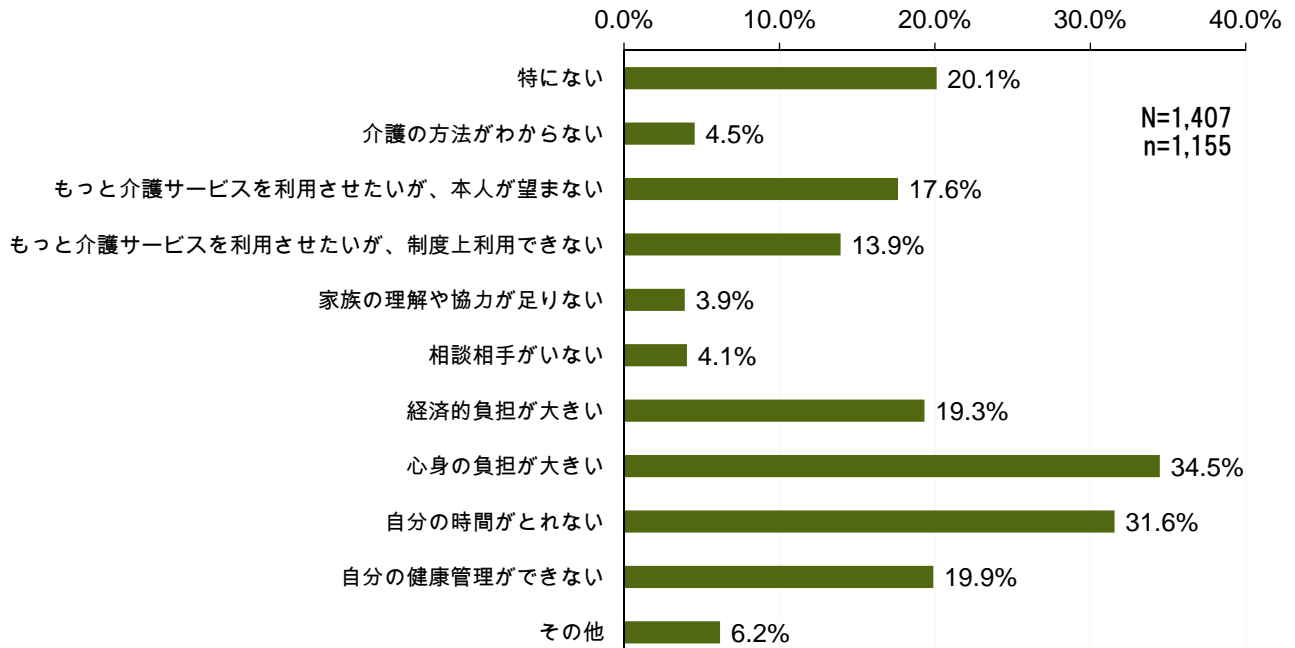
家族・親族の介護離職の状況

介護のために過去に仕事を辞めた方がいるかたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が50.3%となっている。一方、「主な介護者が仕事を辞めた」「主な介護者以外の家族が仕事を辞めた」と回答した方が合わせて13.6%となっている。



介護者の困りごと

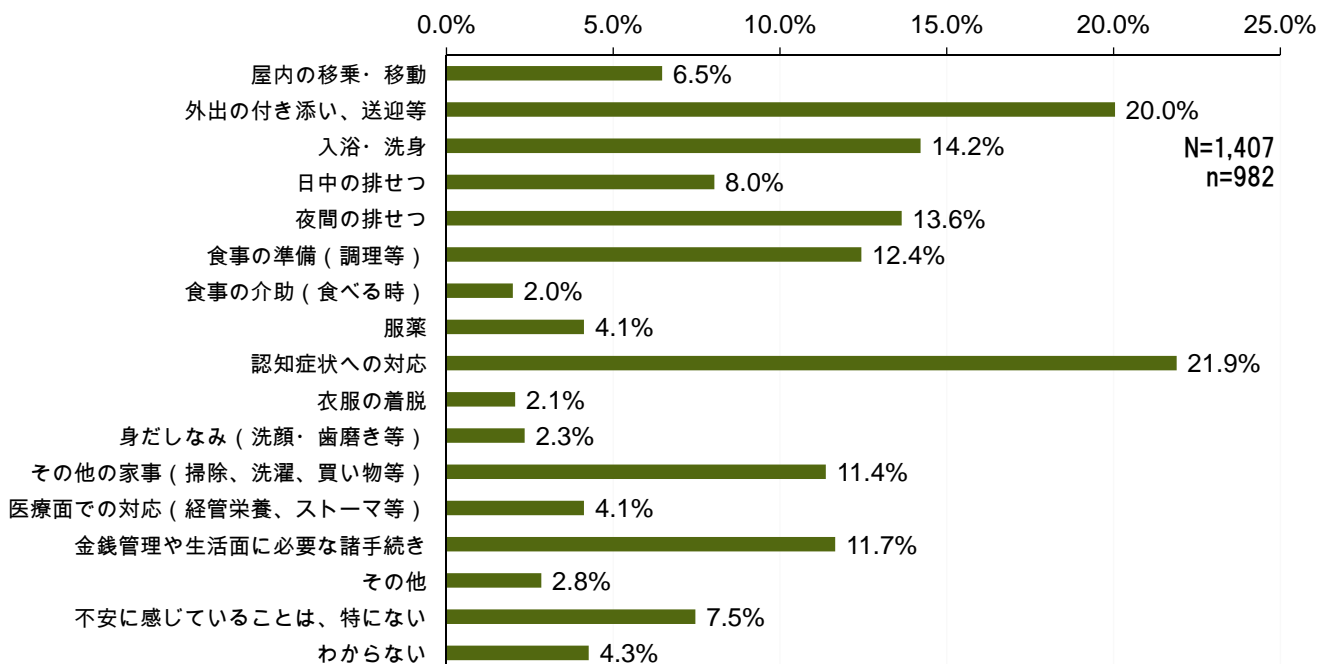
介護者が介護を行ううえで困っていることをたずねたところ、「心身の負担が大きい」が最も多く34.5%、次いで「自分の時間がとれない」31.6%、「自分の健康管理ができない」19.9%、「経済的負担が大きい」19.3%が多くなっている。一方、「特にない」と回答した方は20.1%となっている。



新規

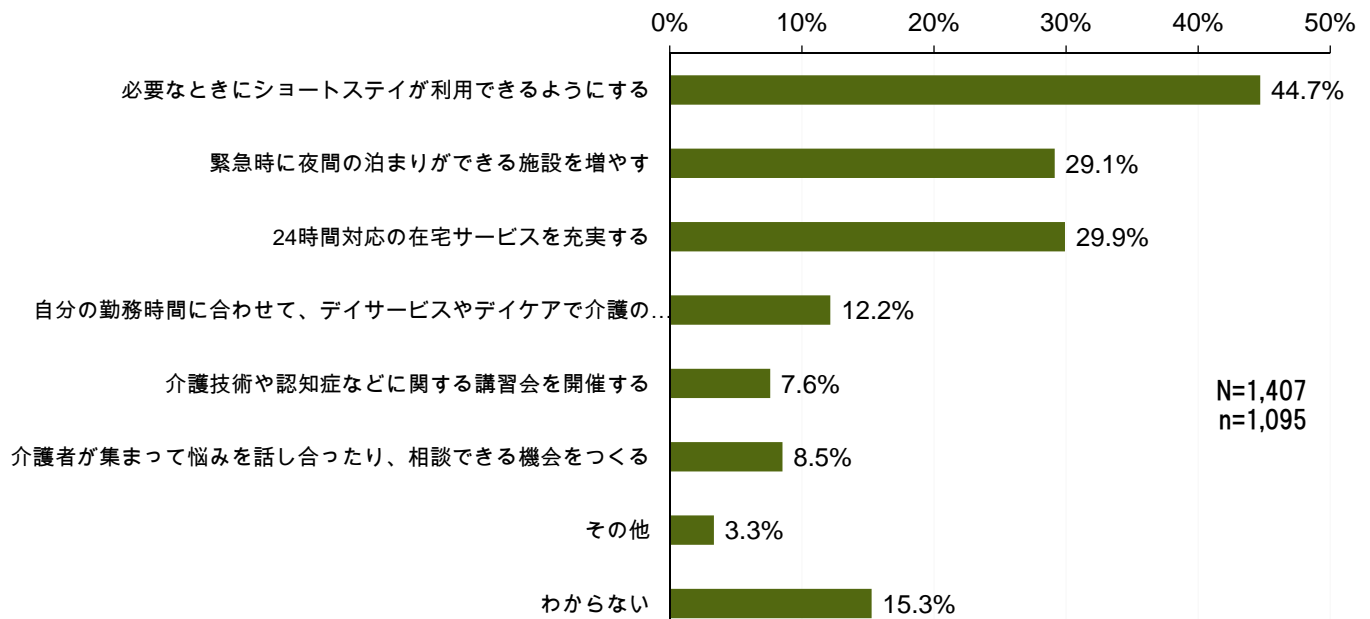
介護者が不安に感じる介護等

現在の在宅生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等についてたずねたところ、「認知症状への対応」が21.9%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が20.0%、「入浴・洗身」が14.2%、「夜間の排せつ」13.6%が多くなっている。



介護負担減のために必要な施策

主な介護者の介護負担を減らすためにどのような施策が必要かたずねたところ、「必要なときにショートステイが利用できるようにする」が最も多く44.7%、次いで「24時間対応の在宅サービスを充実する」29.9%、「緊急時に夜間の泊りができる施設を増やす」29.1%が多くなっている。

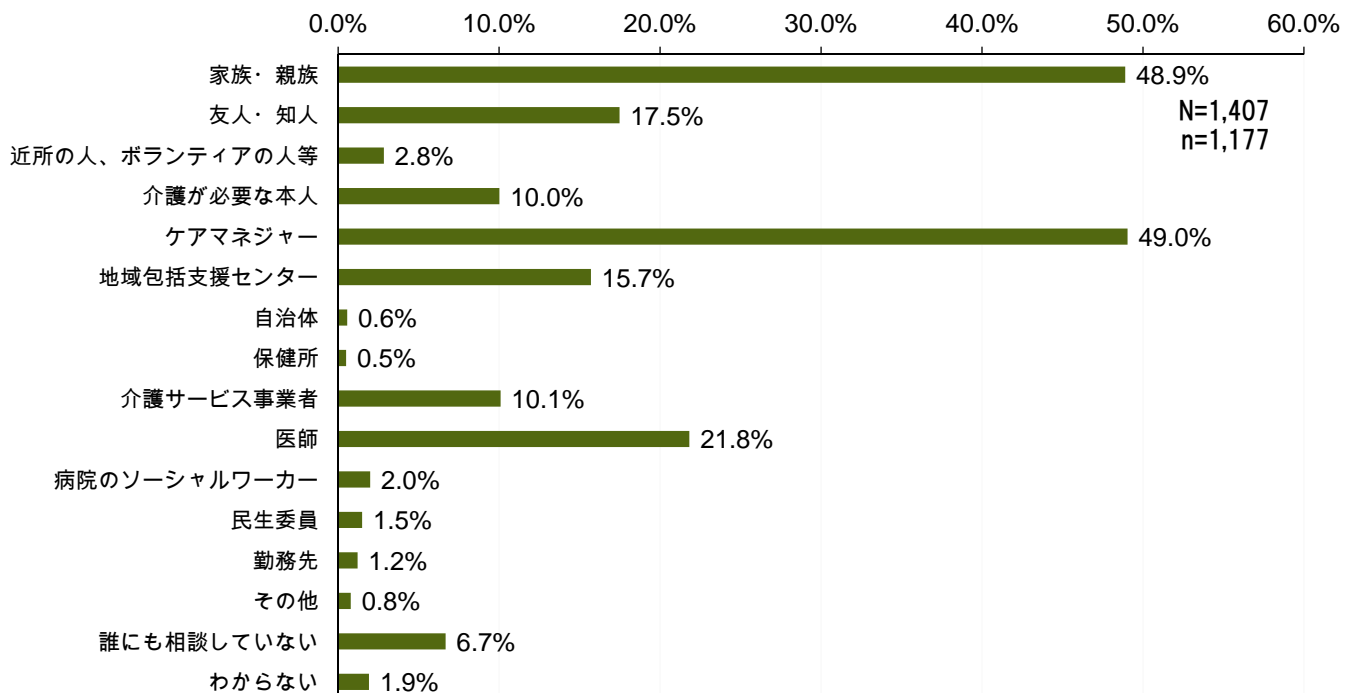


30

新規

介護者の相談相手

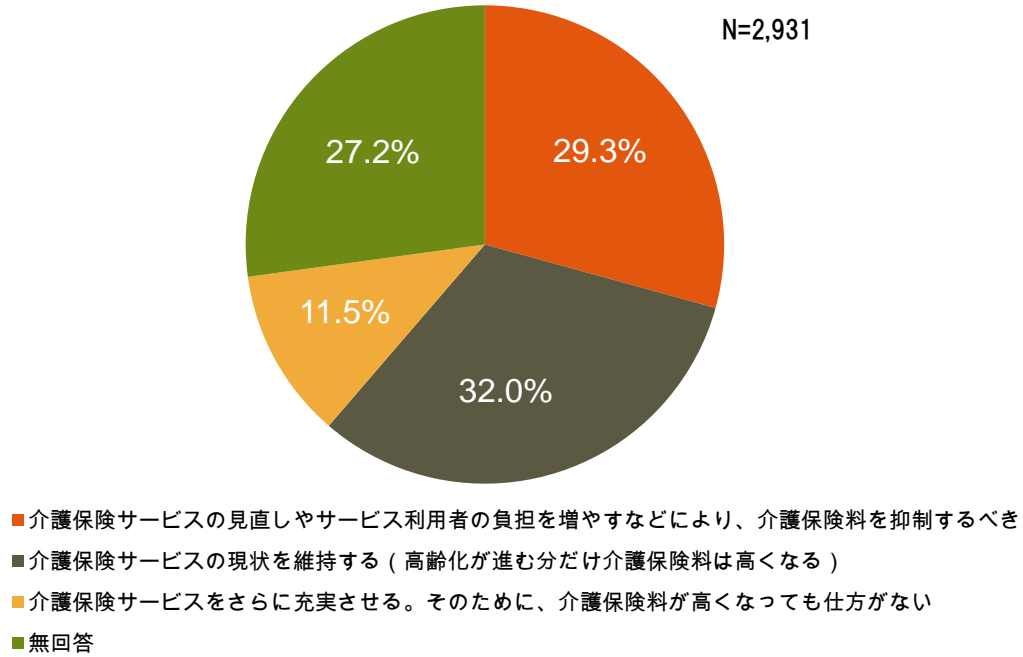
介護者の相談相手は、「ケアマネジャー」が49.0%、「家族・親族」が48.9%、「医師」が21.8%、「友人・知人」が17.5%、「地域包括支援センター」が15.7%の順に多くなっている。



31

介護保険料と介護サービスの考え方

今後の介護保険料について最も近い考えをたずねたところ、「介護保険サービスの現状を維持する」が32.0%と最も多く、次いで「介護保険サービスの見直しやサービス利用者の負担を増やすなどにより、介護保険料を抑制するべき」29.3%、「介護保険サービスをさらに充実させる。そのために、介護保険料が高くなっても仕方がない」11.5%の順となっている。なお、無回答も27.2%となっている。



第7期神戸市介護保険事業計画策定に 向けての実態調査結果

(中間報告)

施設入所者調査

定員数

	特別養護老人ホーム	老人保健施設	介護療養型医療施設	特定施設	サービス付き高齢者向け住宅	グループホーム
施設数 (回答数)	72施設	38施設	5施設	68施設	42施設	69施設
定員数	4,284人	一般棟 2,618人 専門棟 1,087人 計 3,705人	270人	5,275人	1,254人	1,327人
1施設あたり 平均	59.5人	97.5人	54.0人	77.6人	29.9人	19.2人

2

申込者数

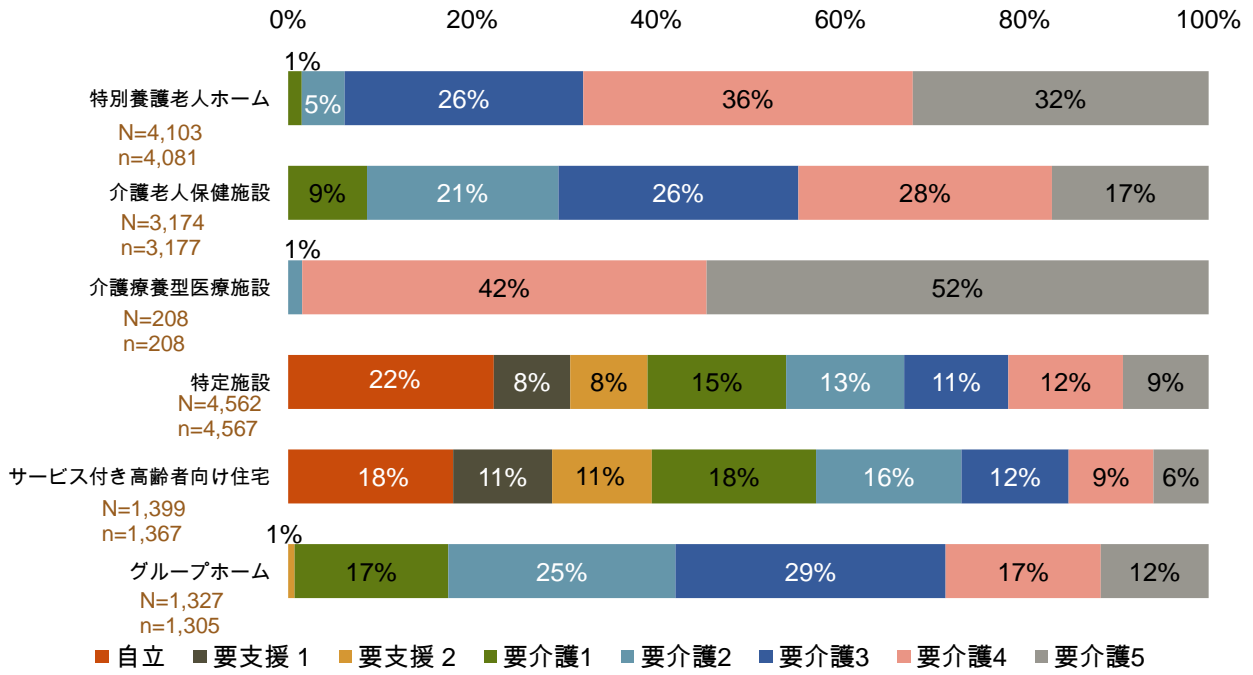
	特別養護老人ホーム	老人保健施設	介護療養型医療施設	特定施設	サービス付き高齢者向け住宅	グループホーム
施設数 (回答数)	72施設	38施設	5施設	68施設	42施設	69施設
申込者数(※) (うち神戸市 在住者)	7,113人 (5,558人)	57人 (49人)	16人 (10人)	225人 (185人)	111人 (89人)	246人 (239人)
1施設あたり 平均 (うち神戸市 在住者)	98.7人 (77.2人)	1.5人 (1.3人)	3.2人 (2.0人)	3.3人 (2.7人)	2.6人 (2.1人)	3.6人 (3.5人)

※回答施設の申込者数の合計。複数施設への申込者は重複してカウント。

3

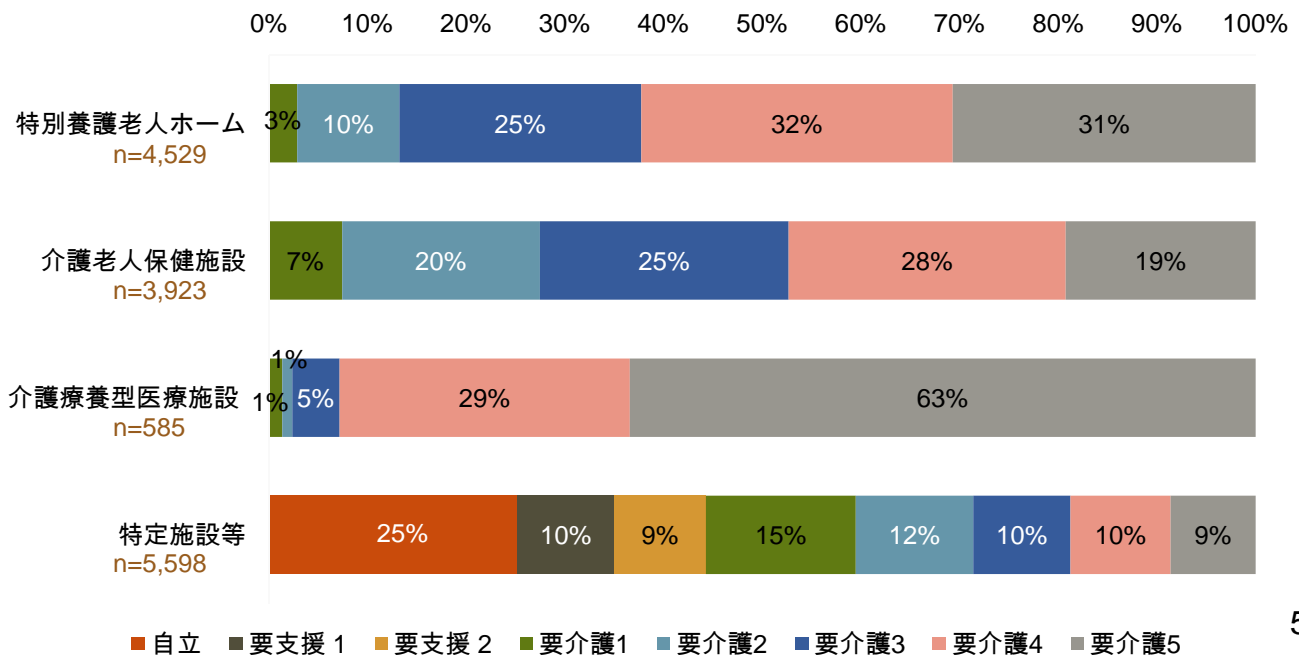
入所者の要介護度

前回調査と比較すると、特別養護老人ホーム(以下「特養」)では、要介護4が4ポイント増加している。要介護1・2は、入所基準の変更に伴い減少している。介護老人保健施設(以下「老健」)は概ね前回調査と同じ状況。特定施設、サービス付き高齢者向け住宅(以下「サ高住」)には、自立の方が約2割おられる。



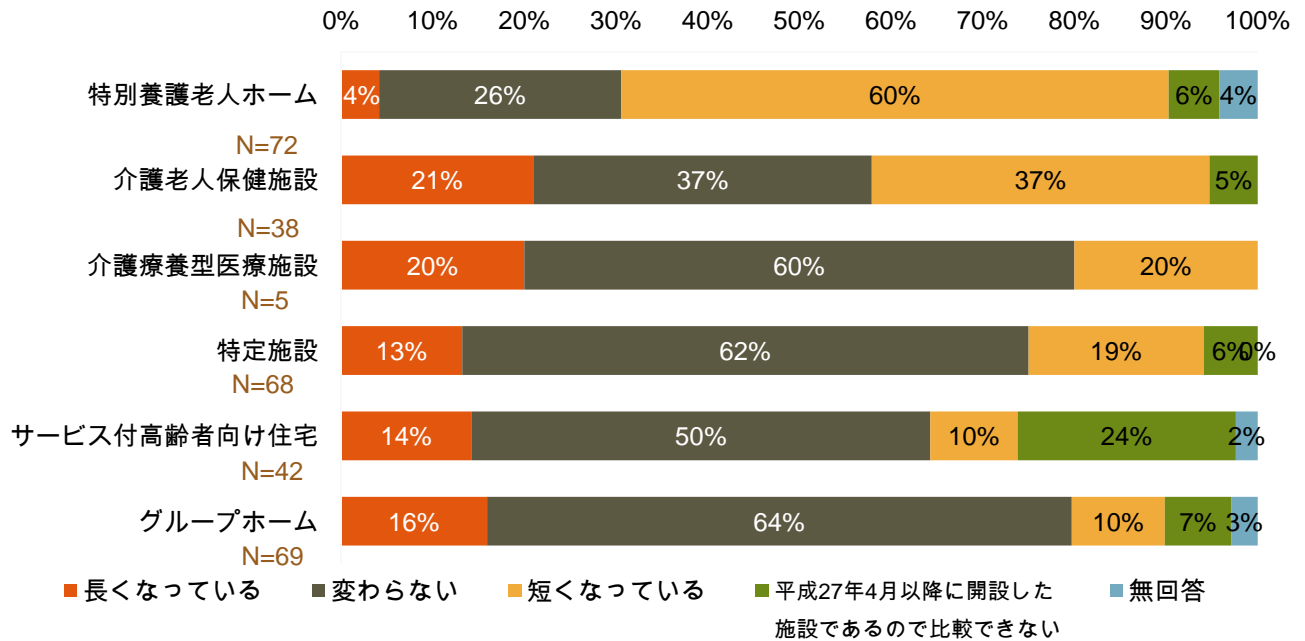
入所者の要介護度

参考：平成25年度調査



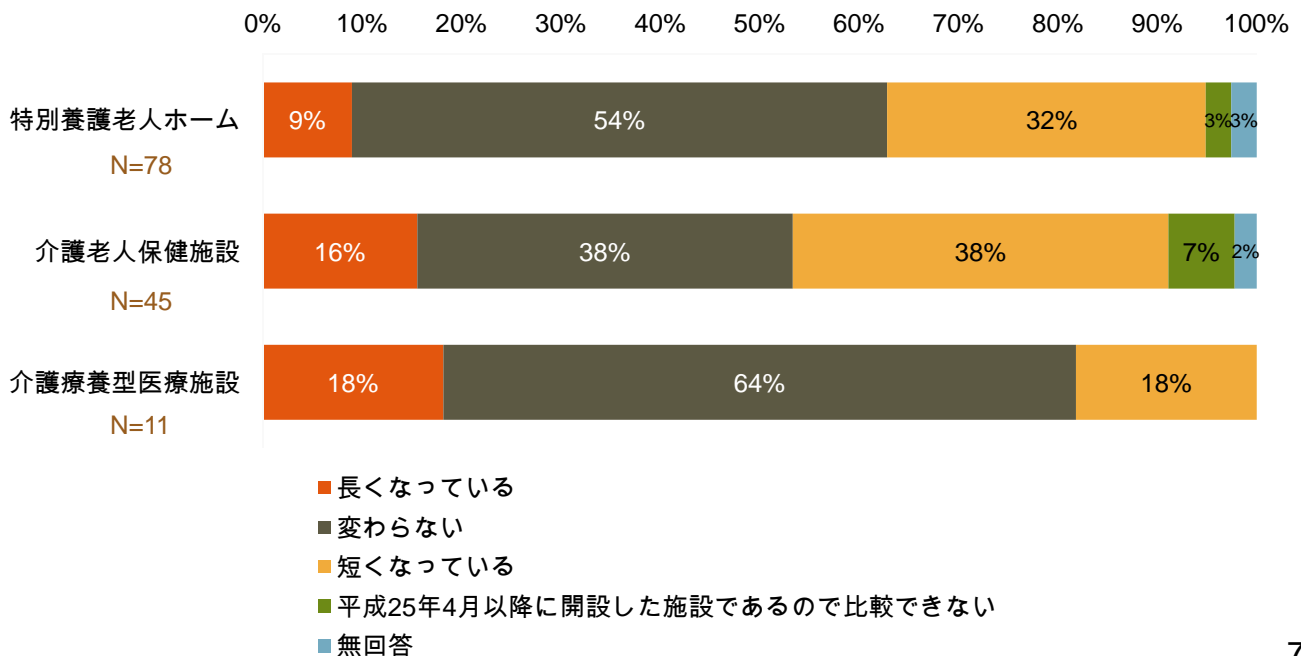
退所・退院者の入所・入院期間の変化

2～3年前と比較した退所・退院者の平均入所・入院期間をたずねたところ、前回調査と比較して、特養では、「長くなっている」が5ポイント減少し、「短くなっている」が28ポイント増加している。老健では、「長くなっている」が5ポイント増加している。



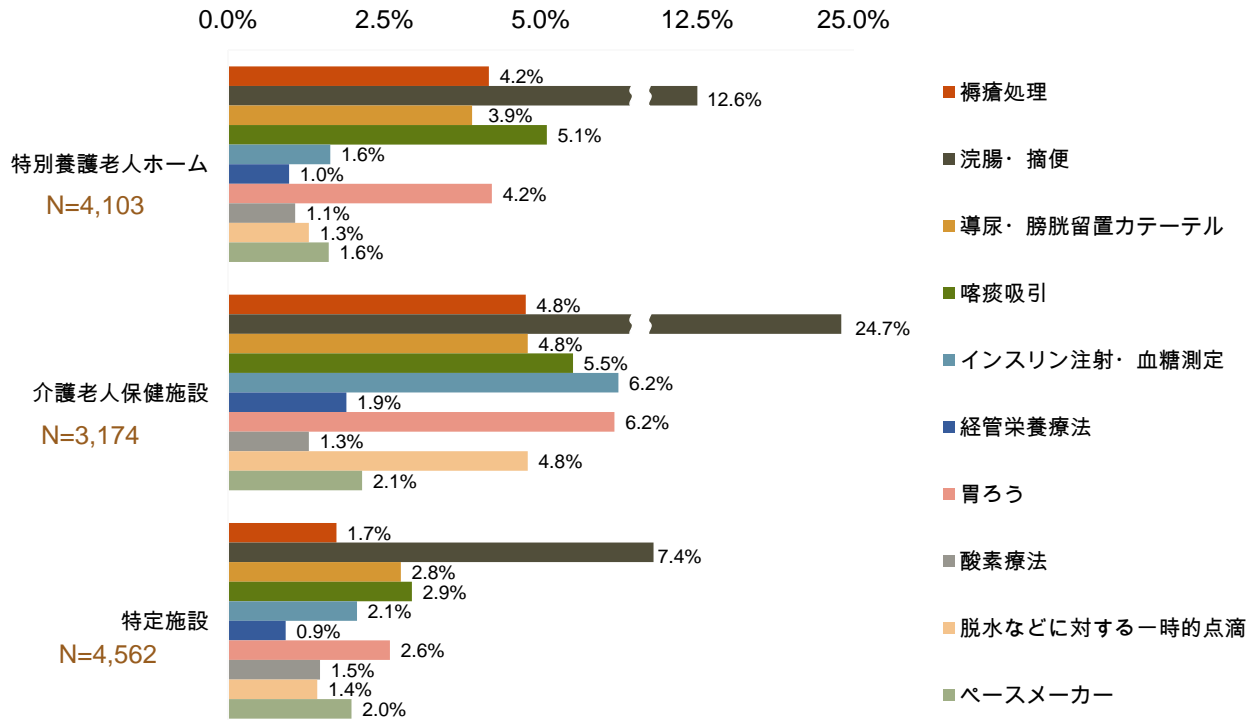
退所・退院者の入所・入院期間の変化

参考：平成25年度調査

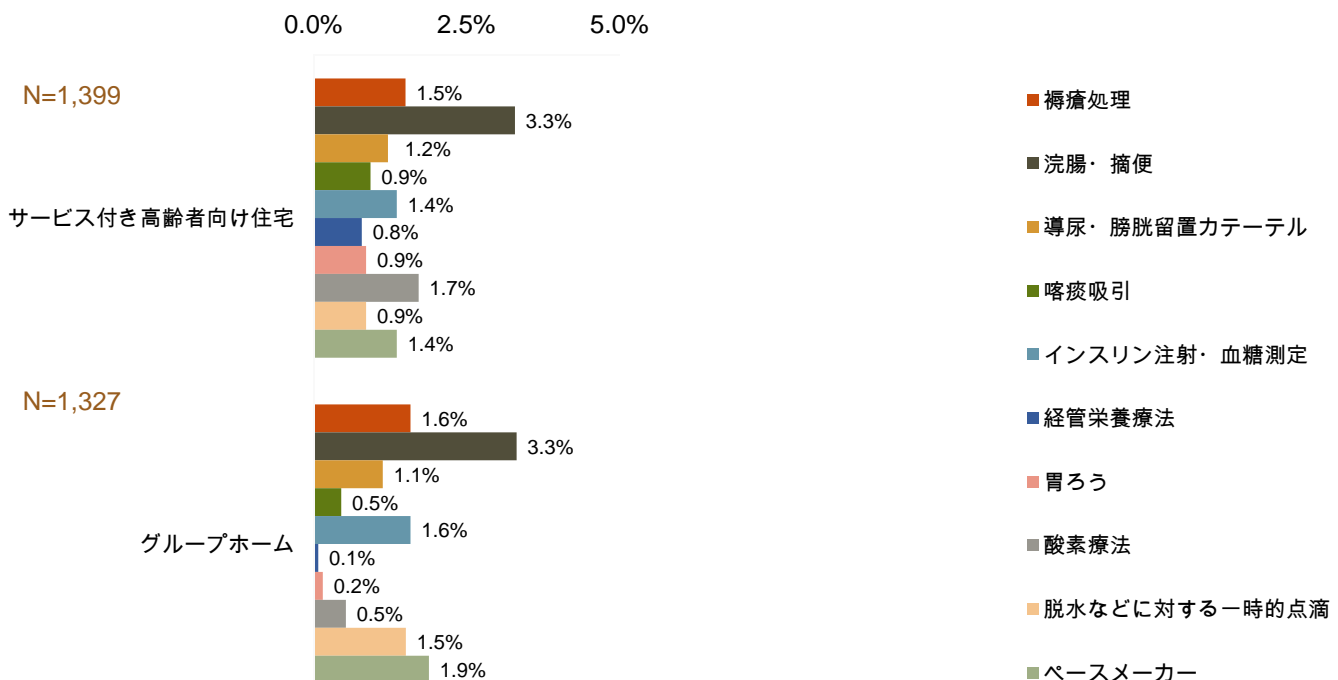


医療ケアの状況 (医療を必要とする入所者の比率)

i) 特養では、「浣腸・排便」12.6%、「喀痰吸引」5.1%、「褥瘡処理」4.2%の順に多くなっている。
 ii) 老健では、「浣腸・排便」24.7%、「インスリン注射・血糖測定」・「胃ろう」6.2%の順に多くなっている。
 iii) 特定施設では、「浣腸・排便」7.4%、「喀痰吸引」2.9%、「導尿・カテーテル」2.8%の順に多くなっている。

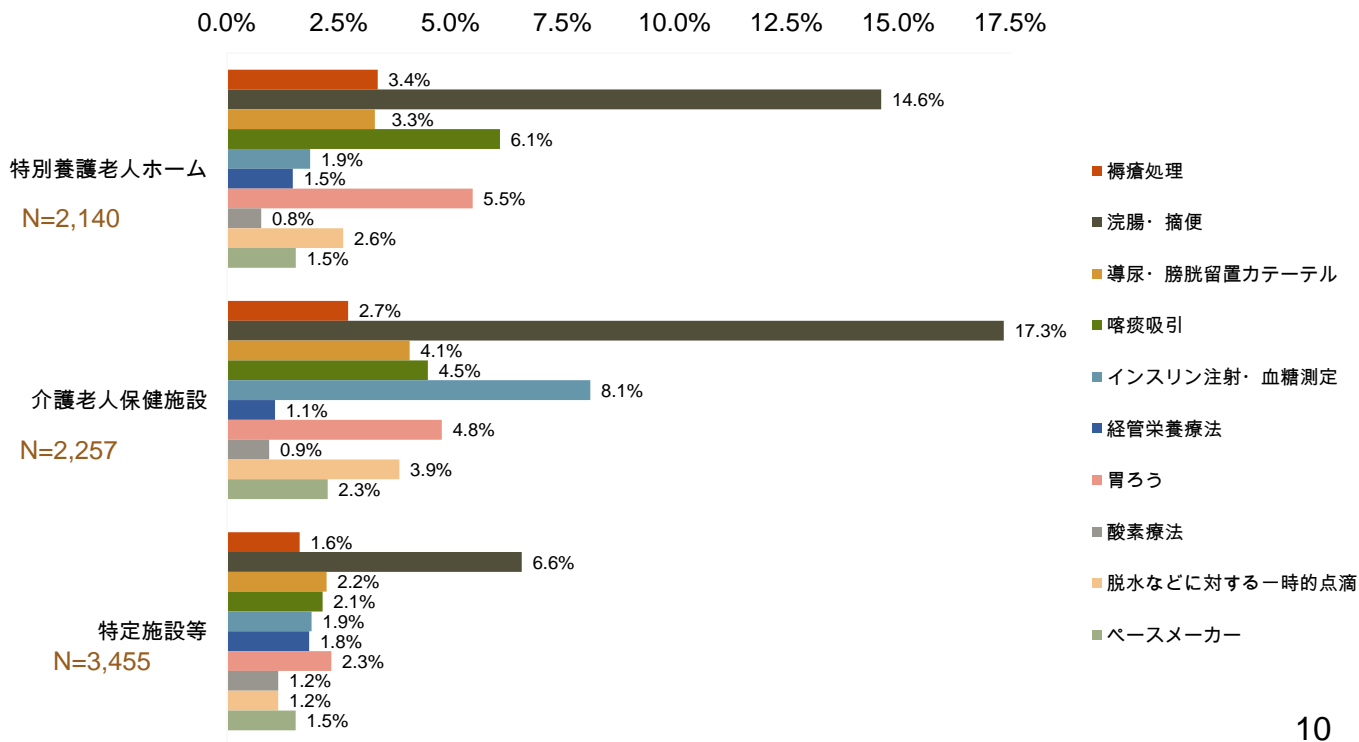


医療ケアの状況 (医療を必要とする入所者の比率)



医療ケアの状況 (医療を必要とする入所者の比率)

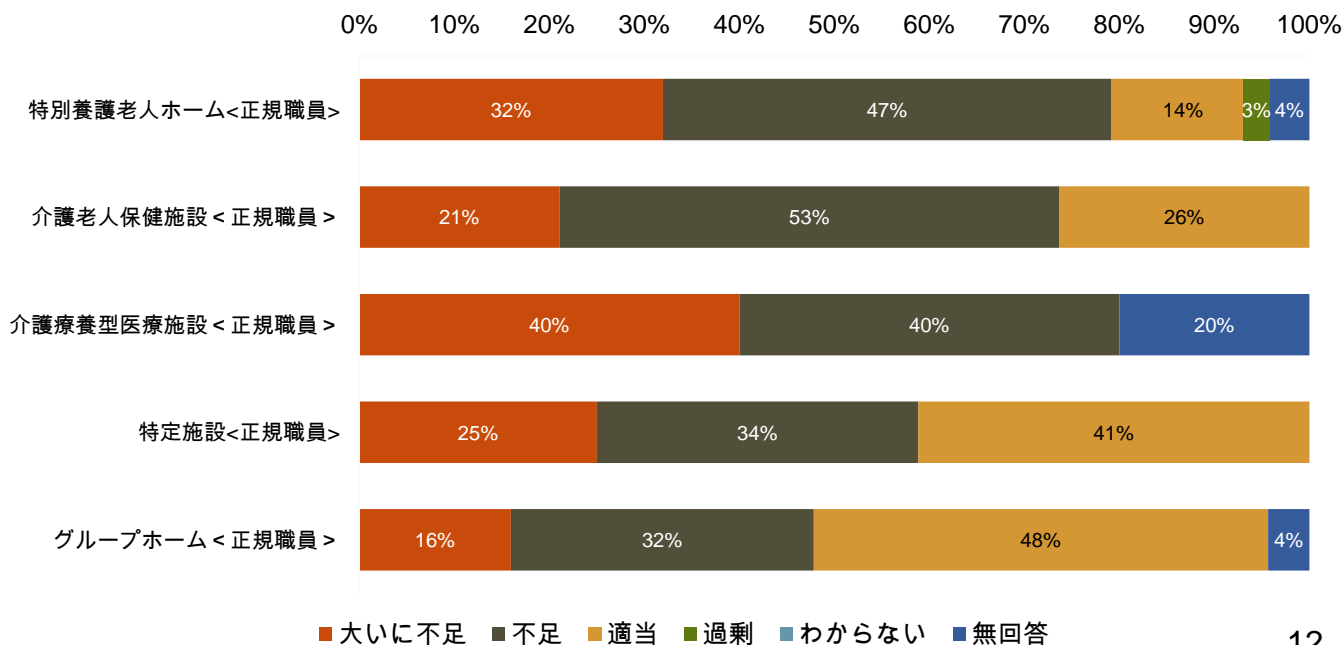
参考：平成25年度調査



職員の充足状況（正規職員）

「大いに不足」「不足」を合わせた割合は、特養79%（61%）、老健74%（40%）、特定施設59%、グループホーム48%となっている。
特に特養においては、前回調査では「大いに不足」は3%であったが、今回は32%となる一方、「適当」が前回調査と比べて18%減少している。

特別養護老人ホーム：N=72、介護老人保健施設：N=38、介護療養型医療施設：N=5、特定施設等：N=68
グループホーム：N=69

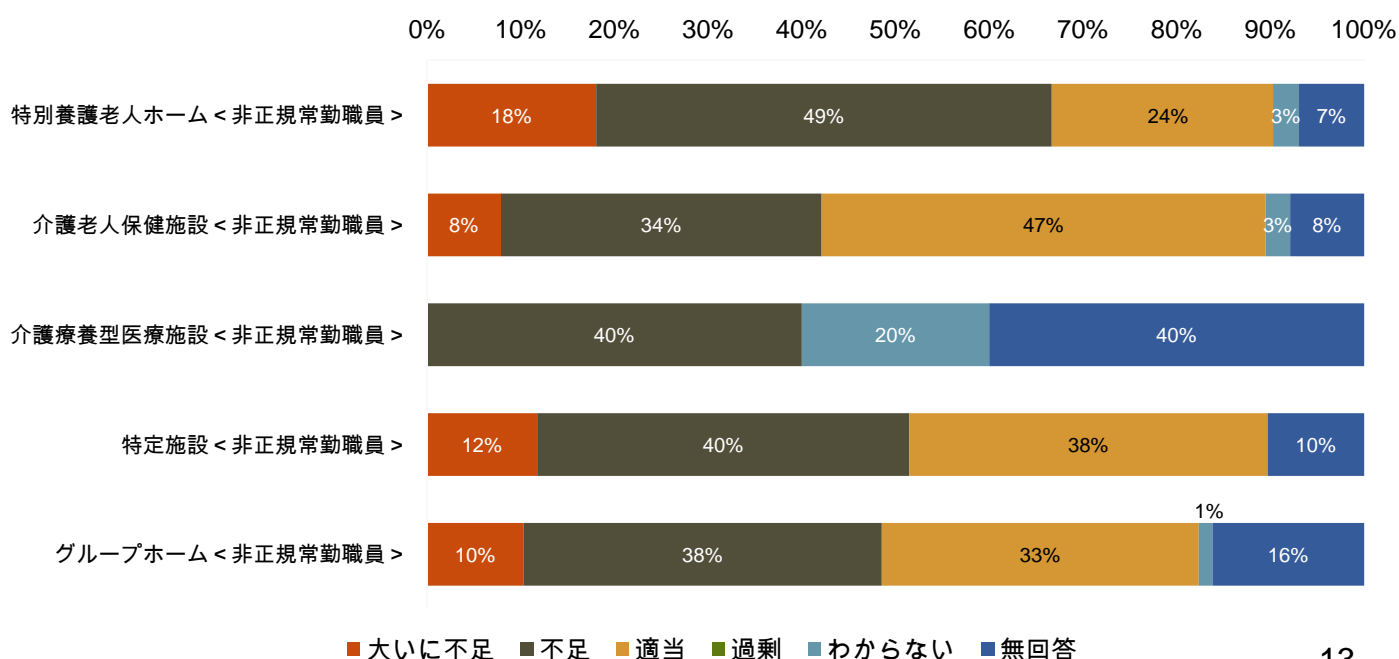


12

職員の充足状況（非正規職員）

「大いに不足」「不足」を合わせた割合は、特養67%（48%）、老健42%（33%）、特定施設等52%（29%）、グループホーム48%となっている。

特別養護老人ホーム：N=72、介護老人保健施設：N=38、介護療養型医療施設：N=5、特定施設等：N=68
グループホーム：N=69

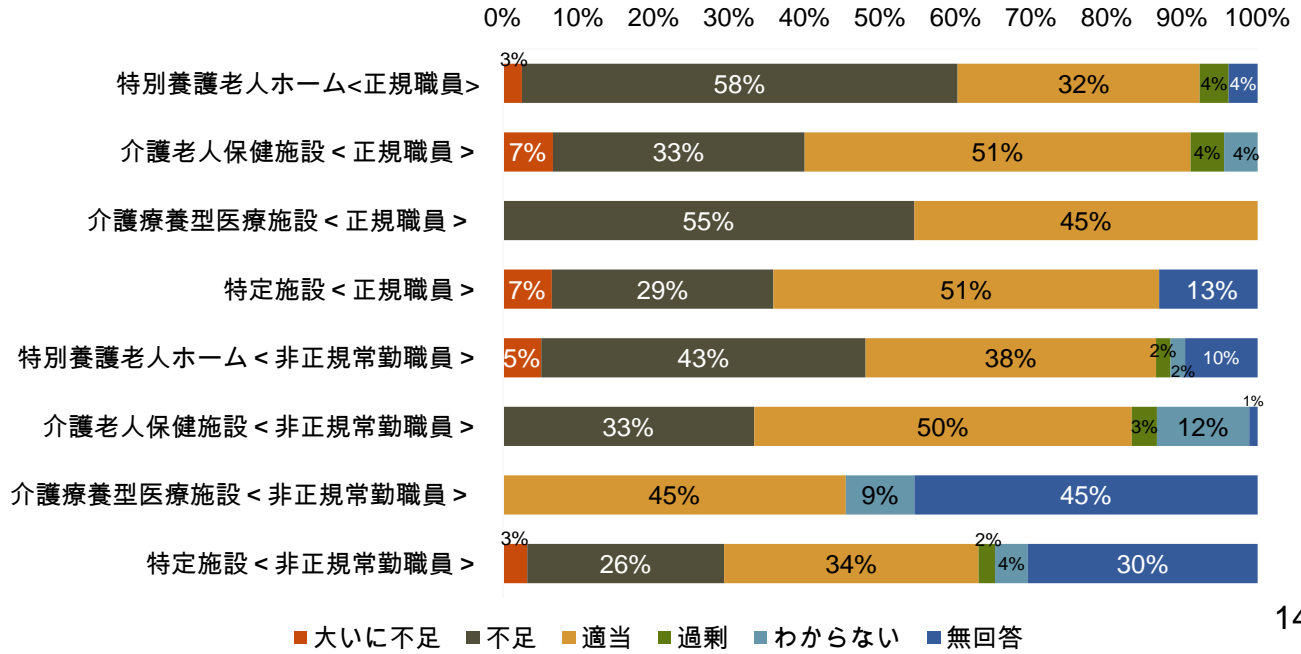


13

職員の充足状況

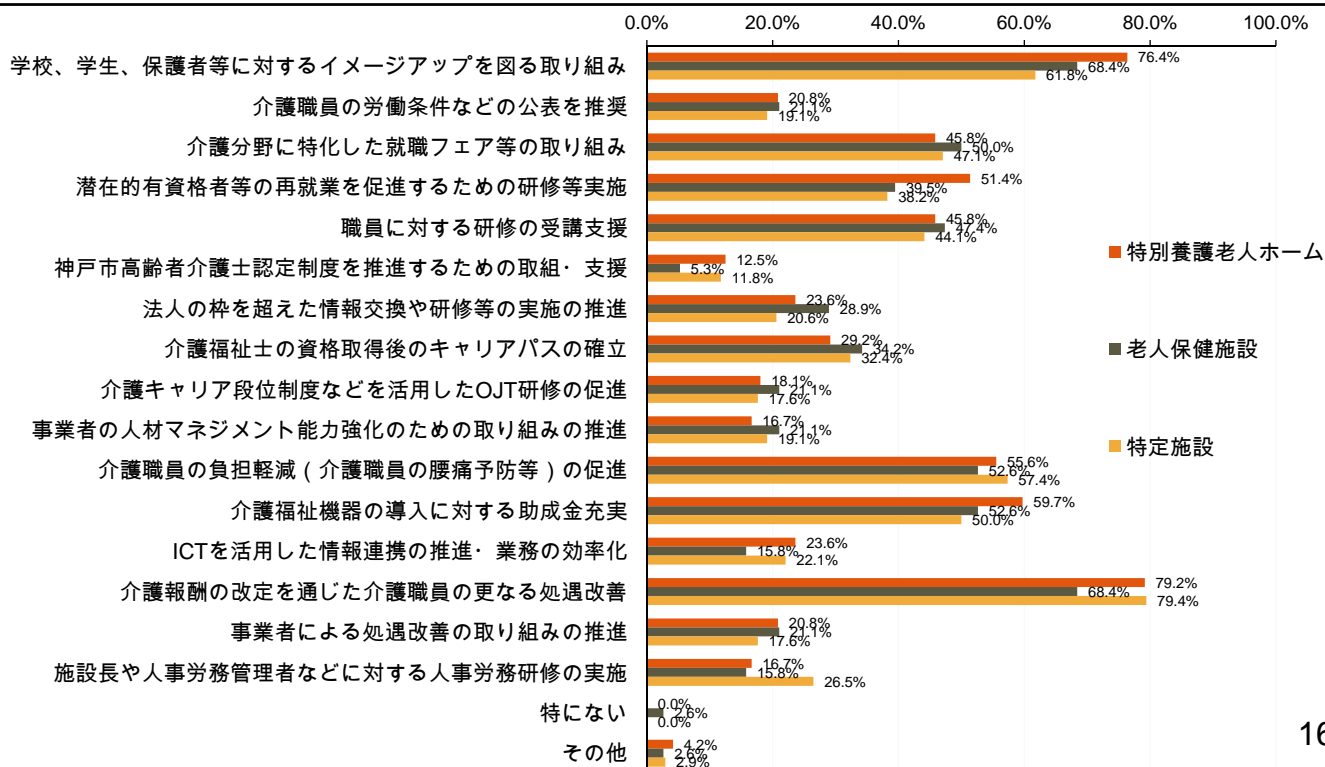
参考：平成25年度調査

特別養護老人ホーム：N=78、介護老人保健施設：N=45、介護療養型医療施設：N=11、特定施設等：N=92

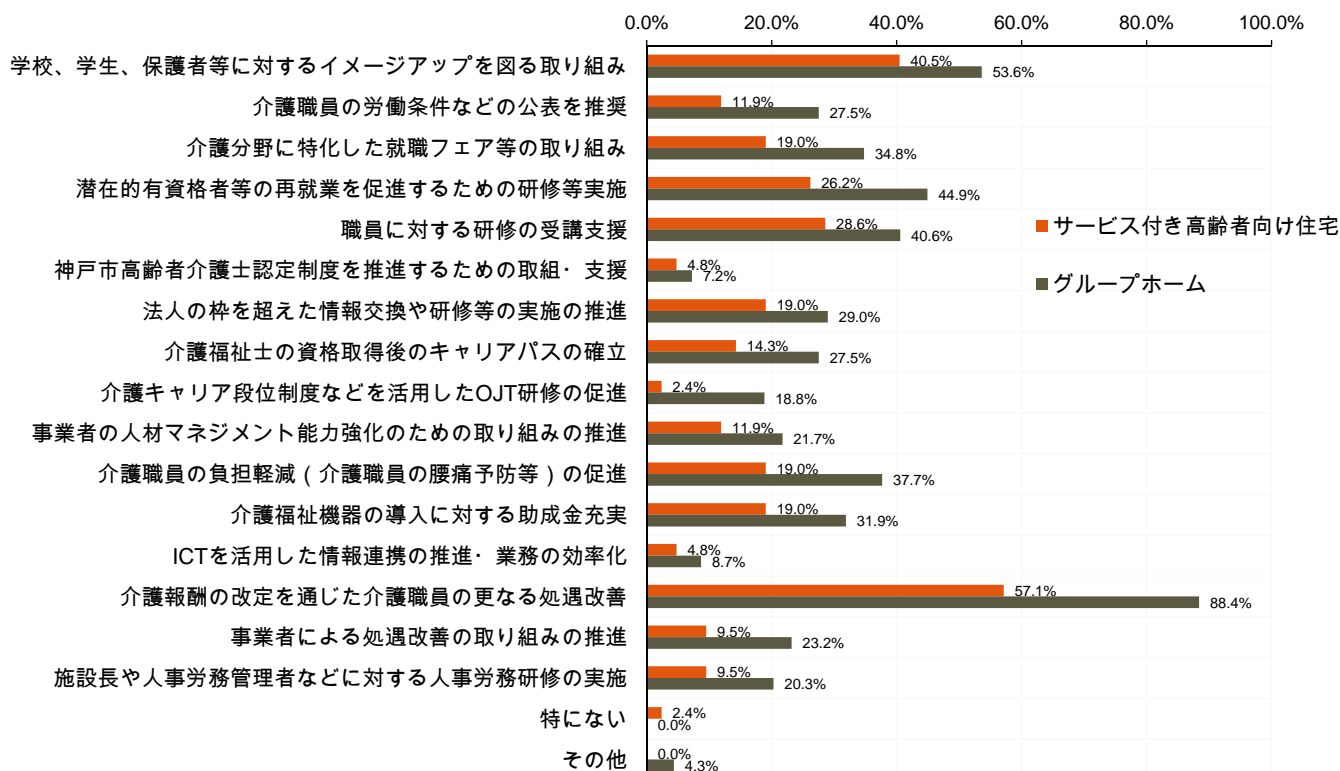


介護人材確保・育成に対する行政への期待（1）

介護人材の確保・育成について、行政・事業者団体に期待することは何かをたずねたところ、「学校、学生、保護者等に対する介護職のイメージアップを図る取り組み」、「就職フェア等の取り組み」、「介護職員の負担軽減（腰痛予防等）の促進」、「介護福祉機器の導入などに対する助成金充実」、「介護報酬の改定を通じた更なる処遇改善」の回答が多くなっている。

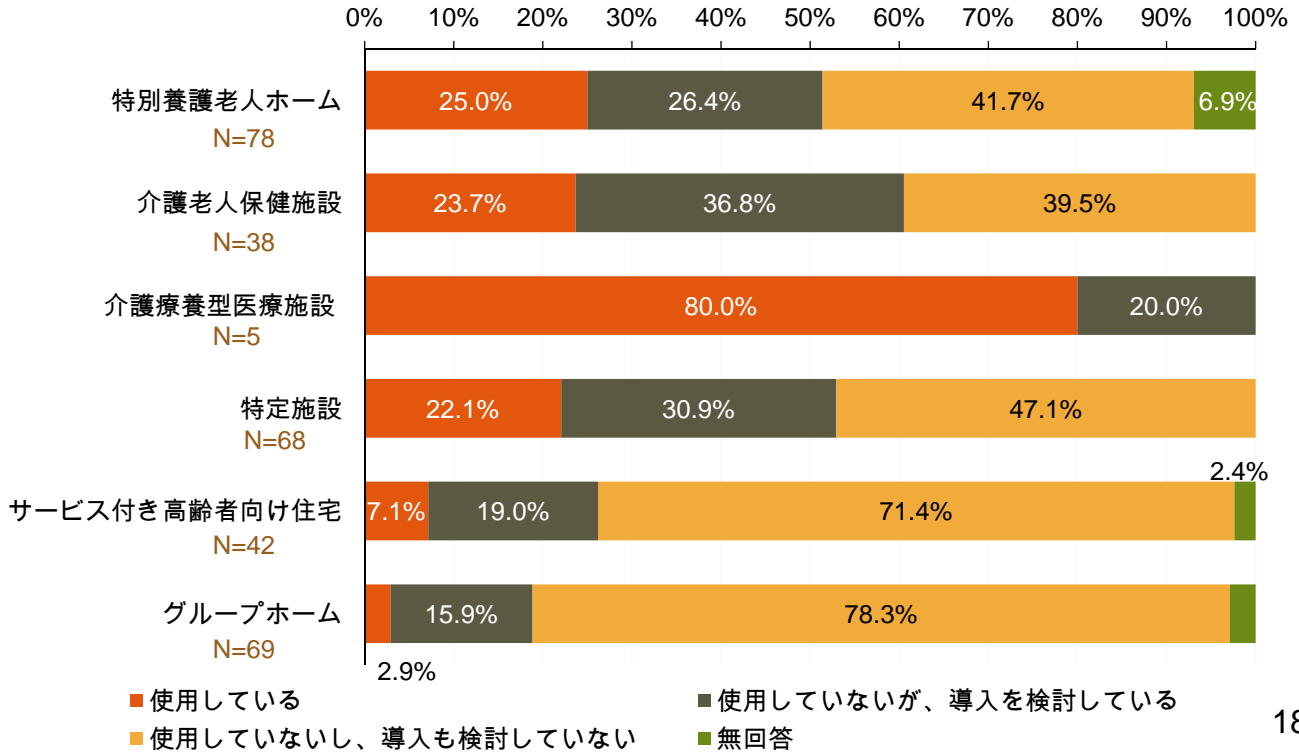


介護人材確保・育成に対する行政への期待（2）



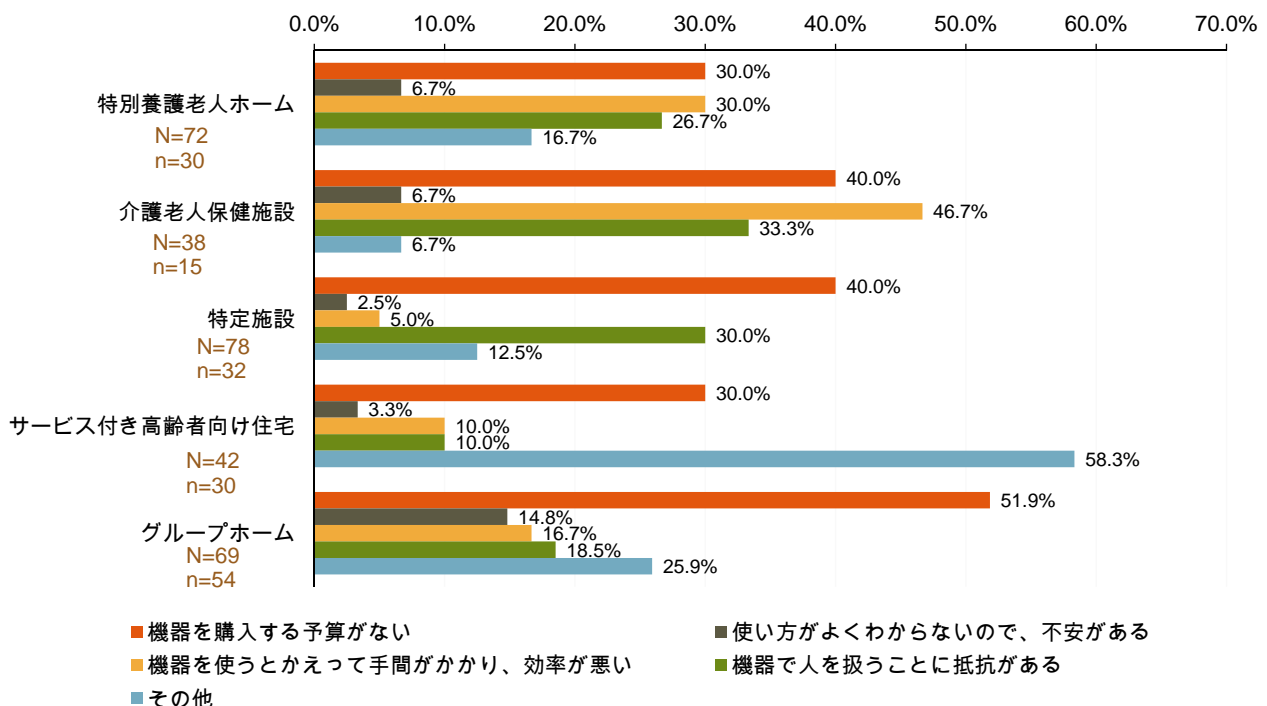
介助用リフトや介護ロボットの使用状況

「使用している」と回答したのは、特養25.0%、老健23.7%、特定施設22.1%、サ高住7.1%、グループホーム2.9%となっている。サ高住、グループホームでは、「導入も検討していない」が、それぞれ71.4%、78.3%と高くなっている。



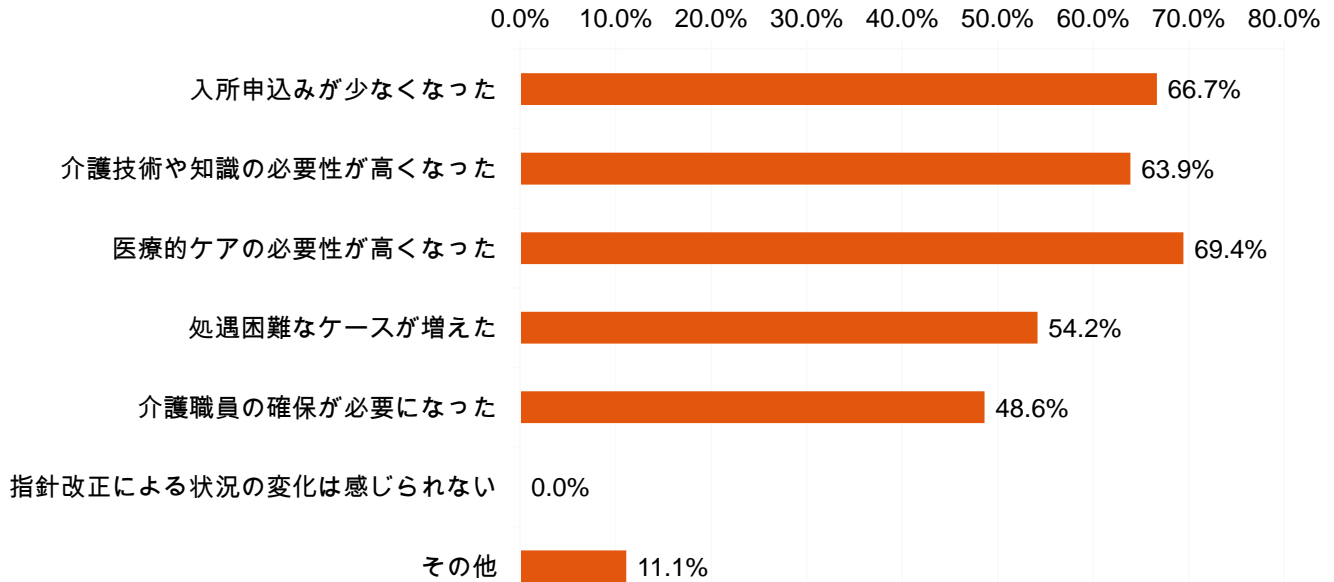
介助用リフトや介護ロボットを使用しない理由

介助用リフトや介護ロボットの導入を検討していないと回答した事業者に対し、その理由をたずねたところ、「機器を購入する予算がない」が、特養30.0%、老健40.0%、特定施設40.0%、サ高住30.0%、グループホーム51.9%と多くなっている。特養と老健では、「機器を使うとかえって手間がかかり、効率が悪い」も、特養30.0%、老健46.7%と多くなっている。



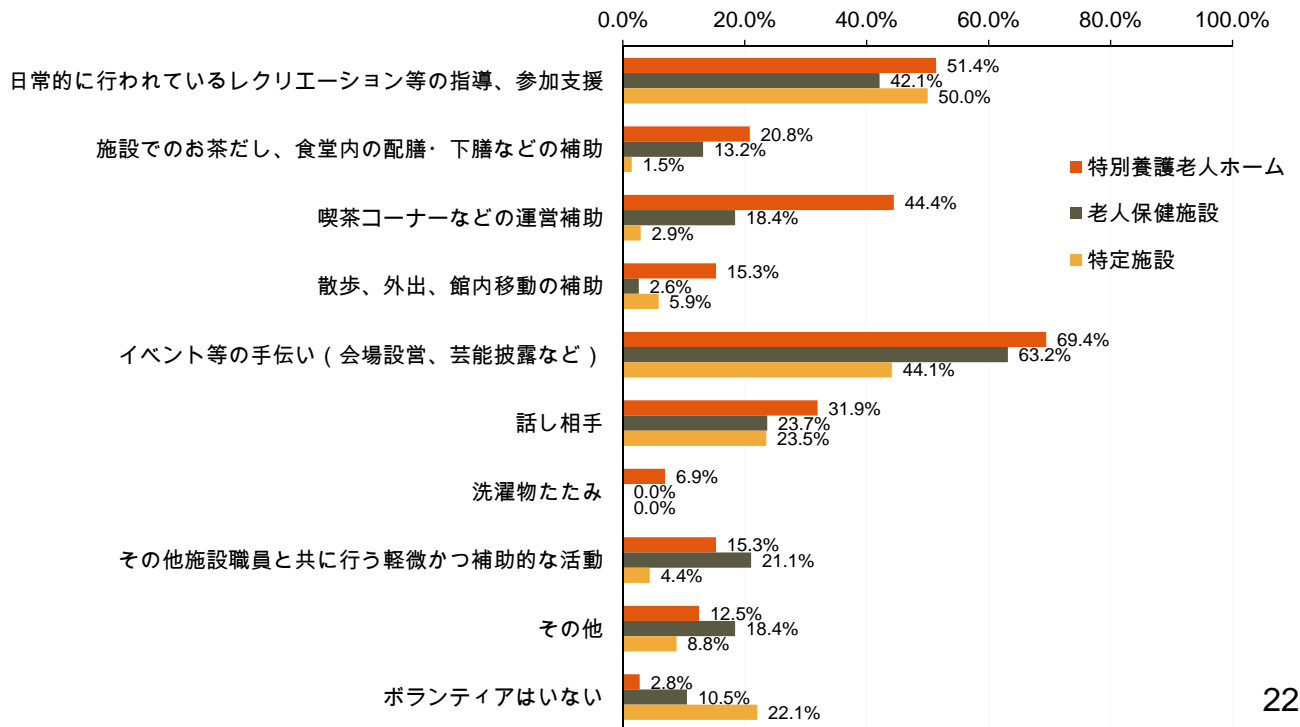
特別養護老人ホーム入所指針改正の影響

平成27年4月から特別養護老人ホームの入所基準が、原則、要介護3以上となったことへの影響をたずねたところ、「医療的ケアの必要性が高くなった」が69.4%と最も多く、次いで「入所申し込みが少なくなった」66.7%、「介護技術や知識の必要性が高くなった」63.9%、「処遇困難なケースが増えた」54.2%、「介護職員の確保が必要になった」48.6%の順に多くなっている。「指針改正による状況の変化は感じられない」と回答した法人はなかった。



ボランティア活動 (1)

いずれの施設等においても、「日常的に行われているレクリエーション等の指導、参加支援」「イベント等の手伝い」が多くなっている。特養では、「施設でのお茶だし、食堂内の配膳・下膳などの補助」「喫茶コーナーなどの運営補助」「散歩、外出、館内移動の補助」「話し相手」が他の施設等より多くなっている。



ボランティア活動 (2)

